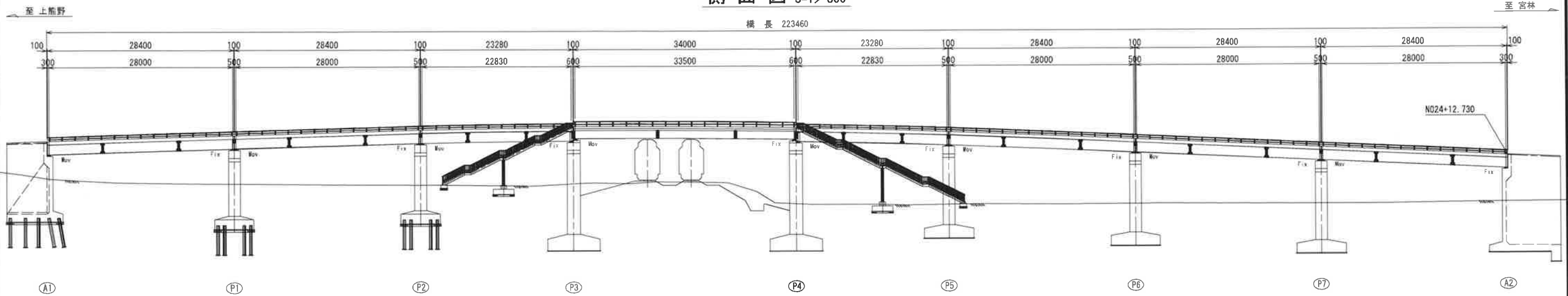
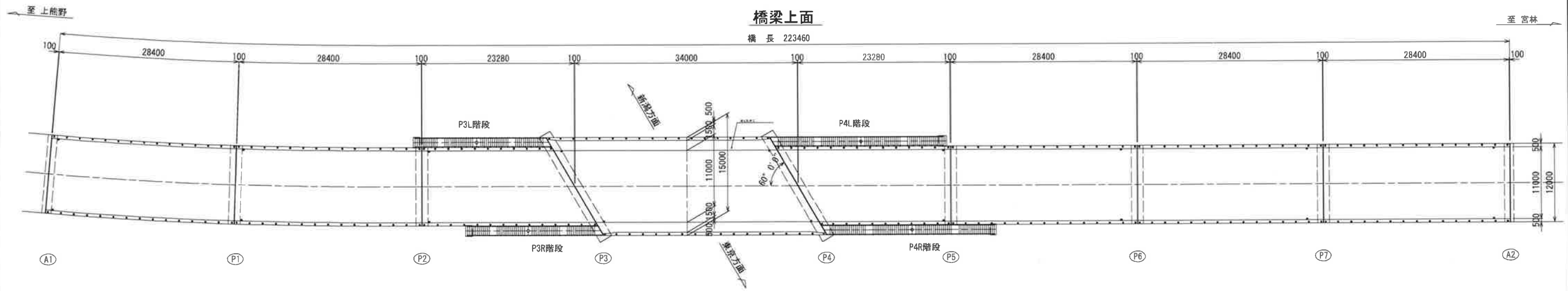


城平跨線橋 全体一般図(復元図その1)

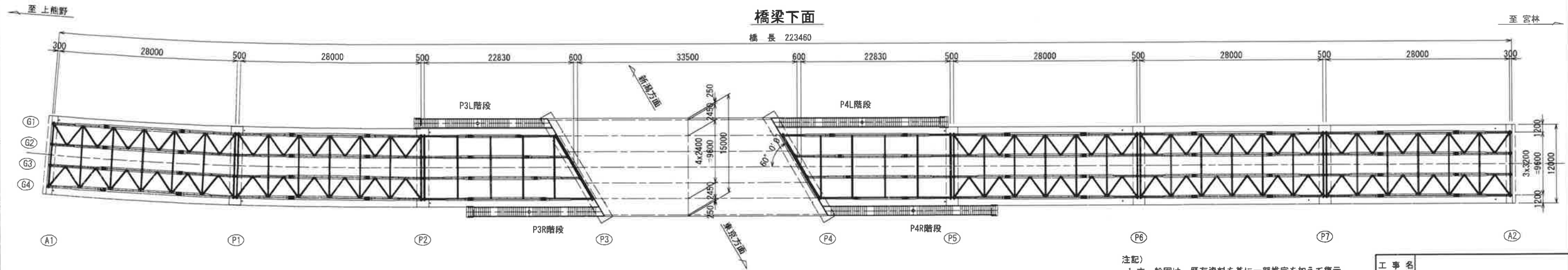
側面図 S=1/300



平面図 S=1/300



橋梁下面



- 注記)
1. 本一般図は、既存資料を基に一部推定を加えて復元したものである。
 2. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
 3. 施工に際しては、必ず現地に補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
 4. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名	
図面名	城平跨線橋 全体一般図(復元図その1)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 1 /
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

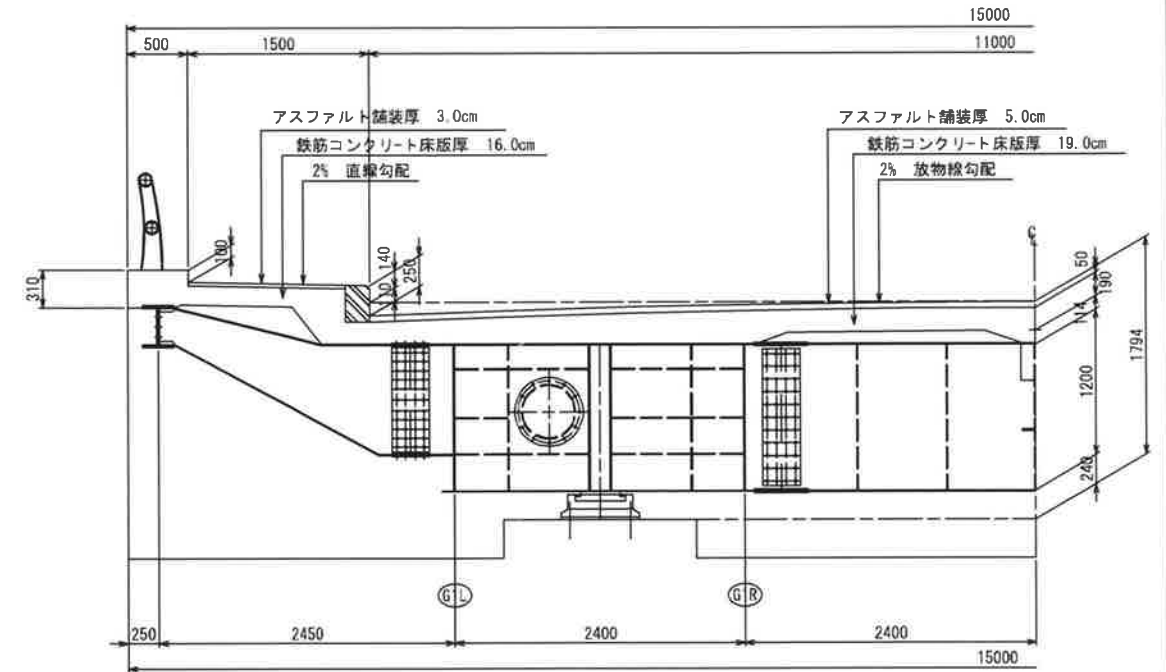
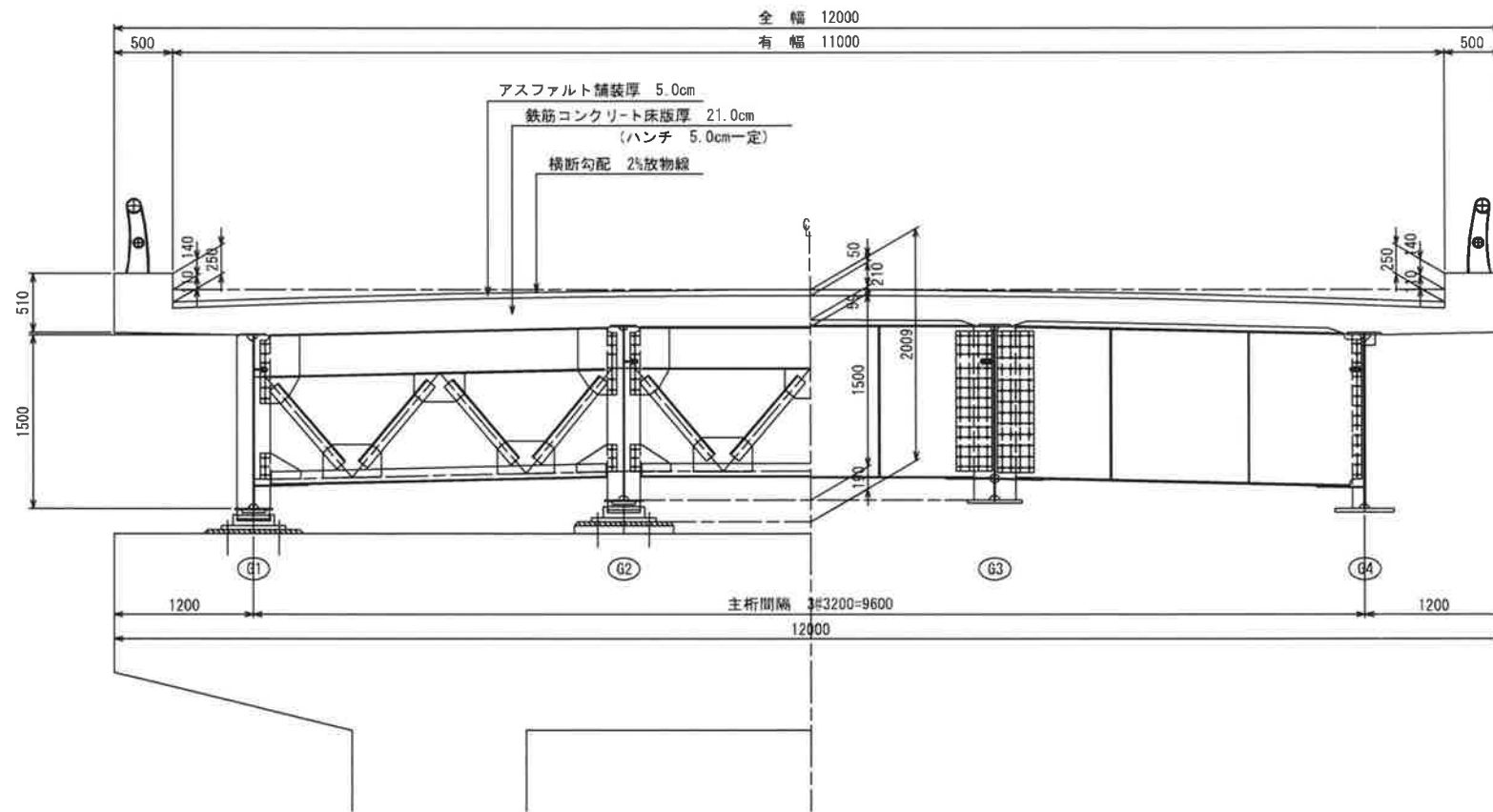
城平跨線橋 全体一般図(復元図その2)

断面図 S=1/30

端対傾構

分配横桁

跨線部
(橋軸直角方向)



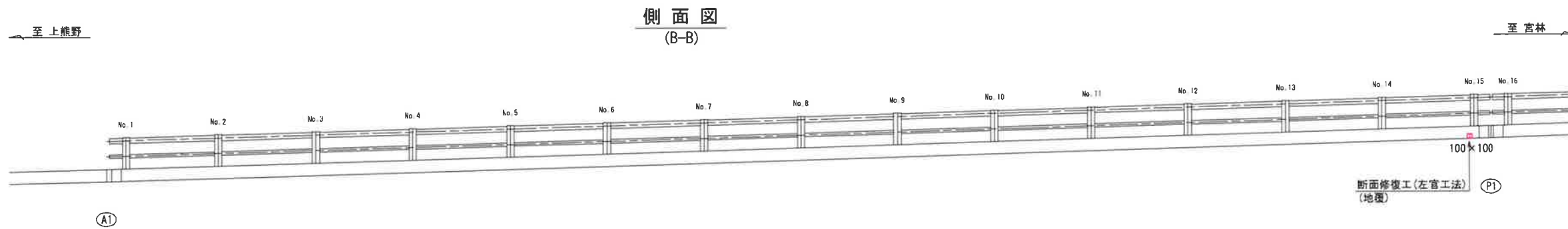
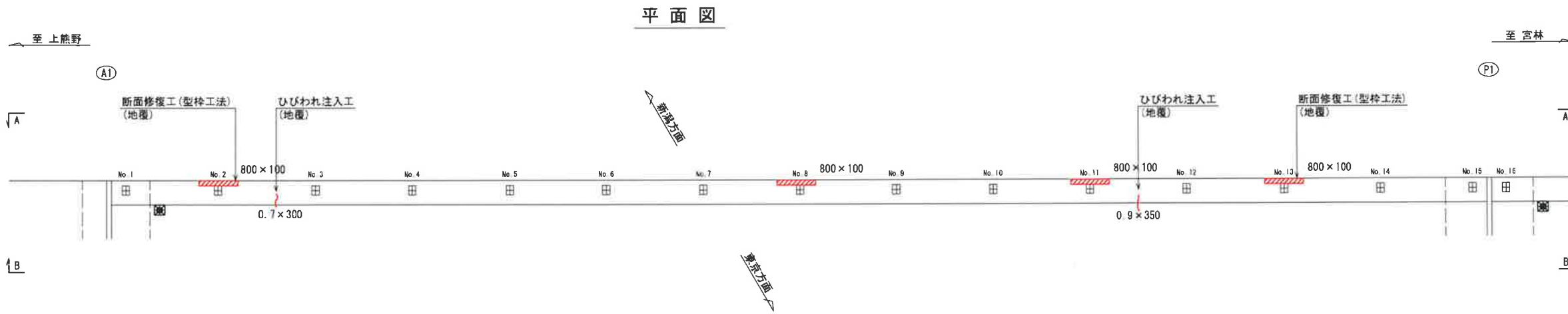
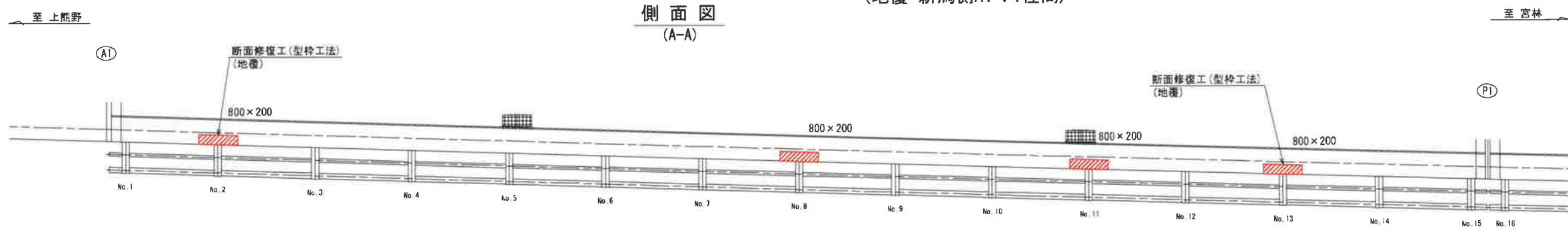
注記)

1. 本一般図は、既存資料を基に一部推定を加えて復元したものである。
2. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
3. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
4. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

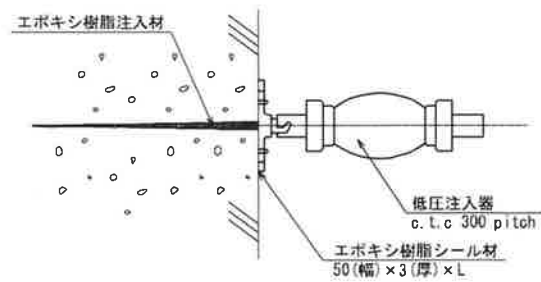
工事名	
図面名	城平跨線橋 全体一般図(復元図その2)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 2 /
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

城平跨線橋 地覆補修工(その1) S=1/50

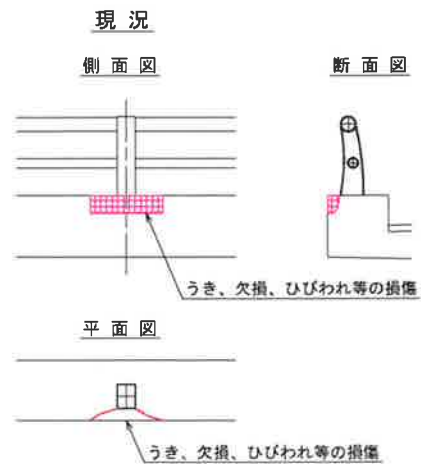
(地覆 新潟側A1-P1径間)



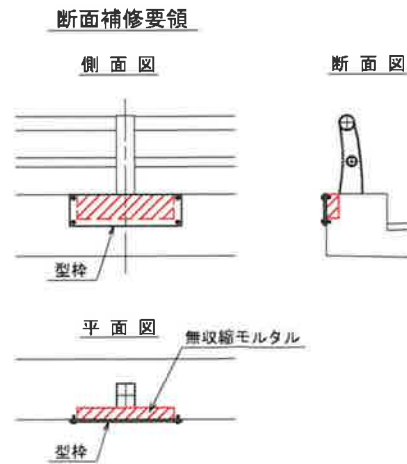
ひびわれ注入工



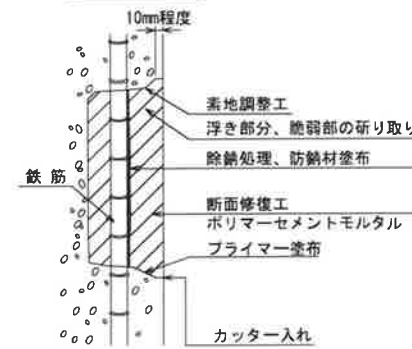
型枠工法



断面修復工



左官工法



- 注記)
- 補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
 - 断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
 - 断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
 - 断面修復箇所及び数量は、現地にて確認すること。
 - かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

凡例

	0.2mm以上のひびわれ
	剥離

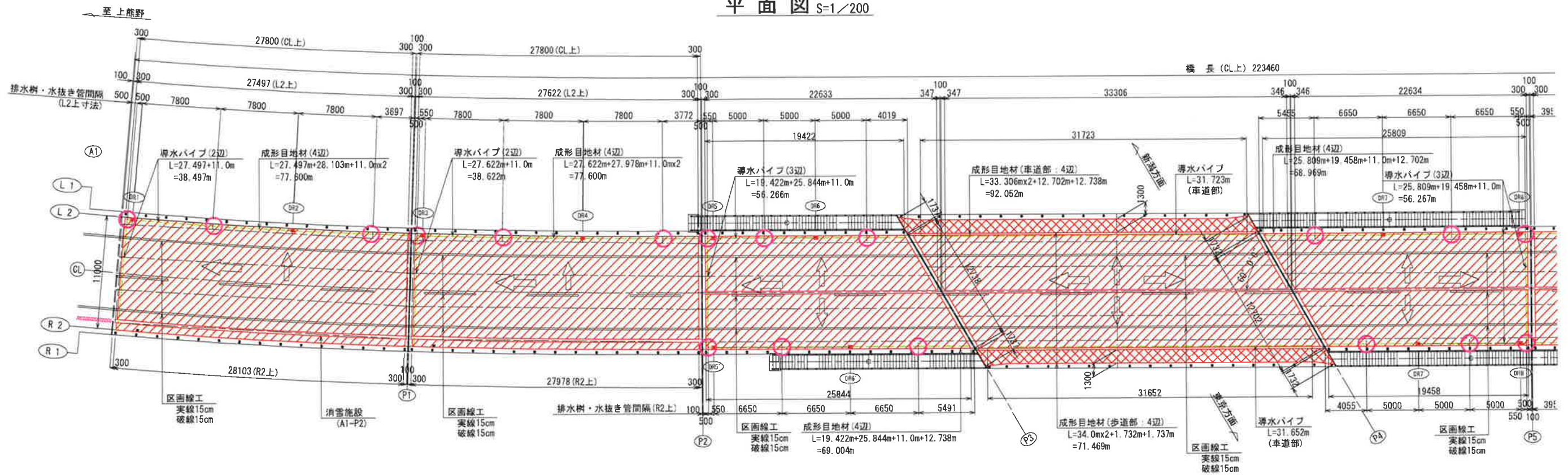
注記)

- 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
- 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
- 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名			
図面名	城平跨線橋 地覆補修工(その1)		
作成年月日	平成30年12月 日		
縮尺	図示	図面番号	5 /
会社名	株式会社 構造技研新潟		
事業者名	湯沢町地域整備部建設課		

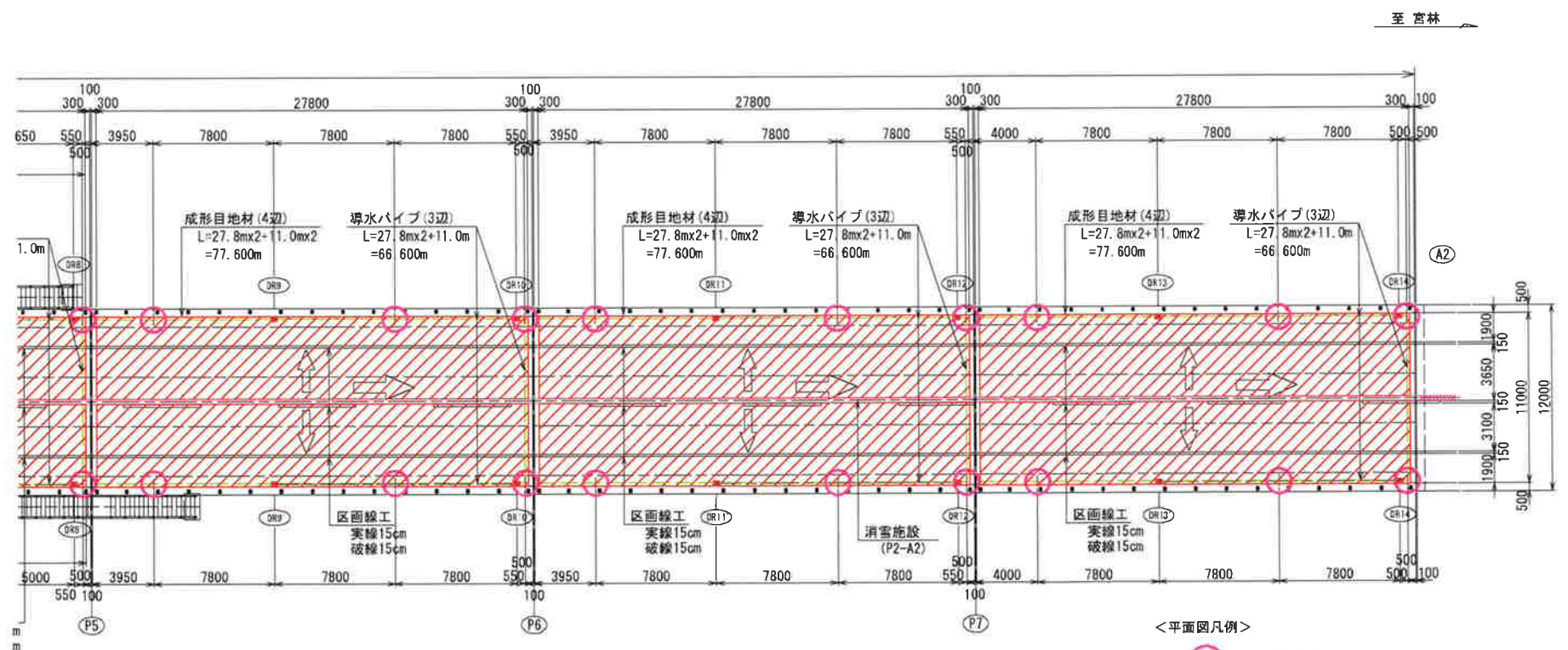
城平跨線橋 舗装打換え、床版防水工(その1)

平面図 S=1/200



<平面図凡例>

○ 水抜き管(新設)



<平面図凡例>

○ 水抜き管(新設)

注記)

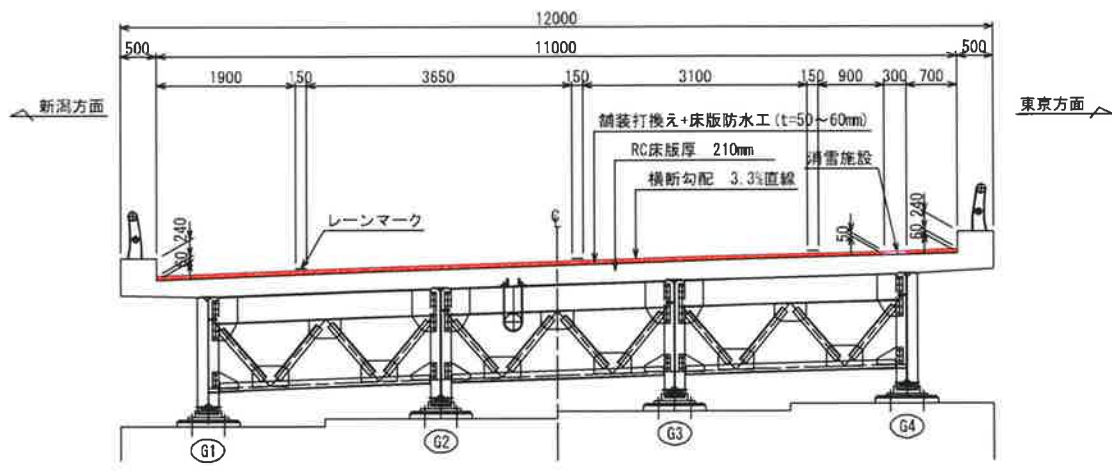
1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
3. P2、P3間については、床版部分打替工完了後に施工を行うこと。
4. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名	
図面名	城平跨線橋 舗装打換え、床版防水工(その1)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 24 /
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

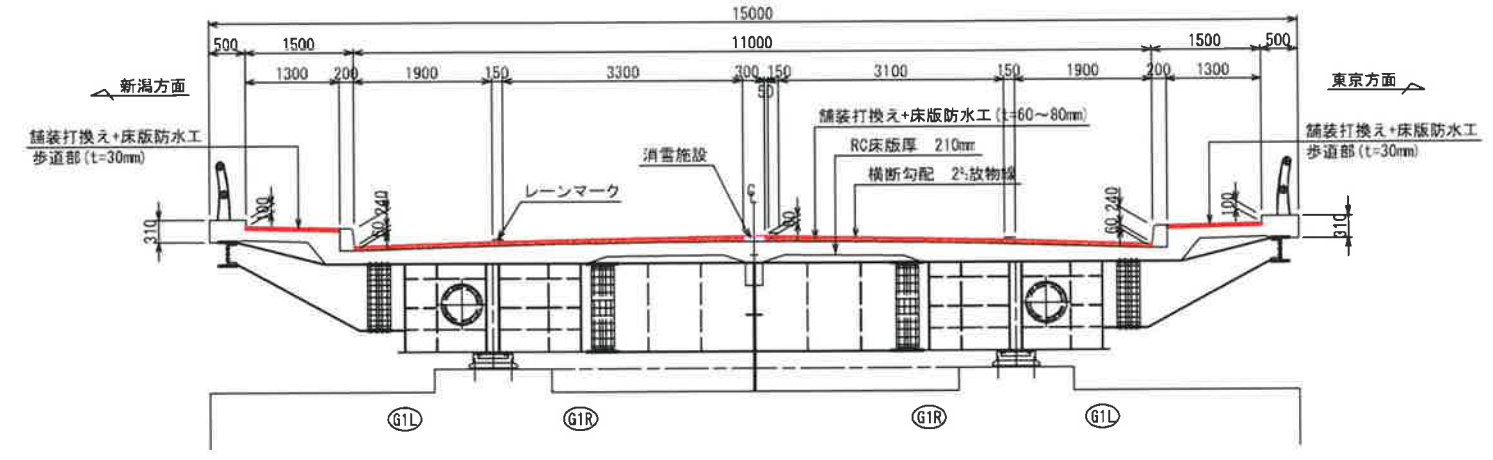
城平跨線橋 舗装打換え、床版防水工(その2)

断面図 S=1/50

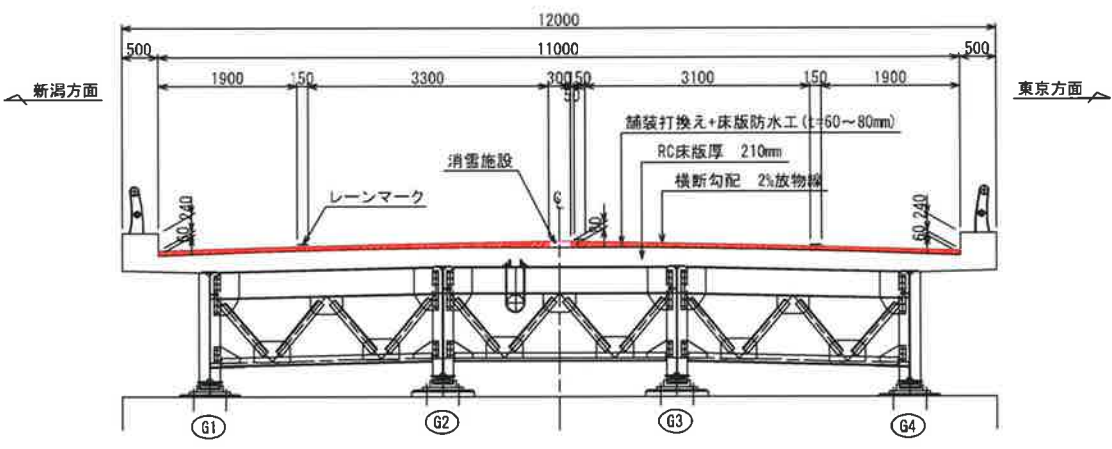
A1~P2径間



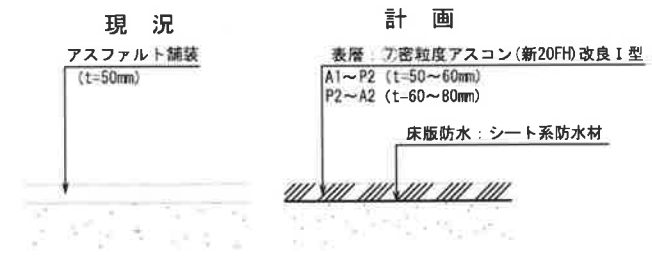
P3~P4径間



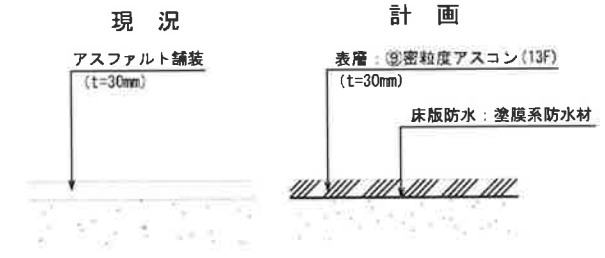
P2~P3, P4~A2径間



車道部舗装詳細図

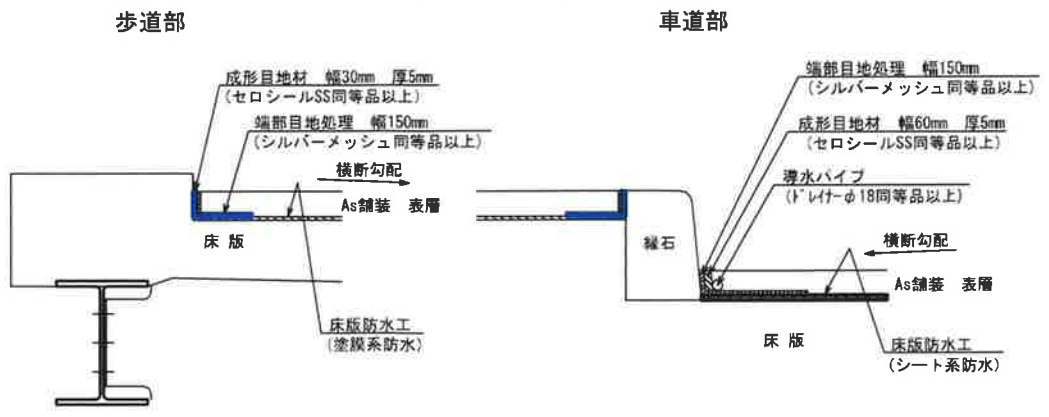


歩道部舗装詳細図

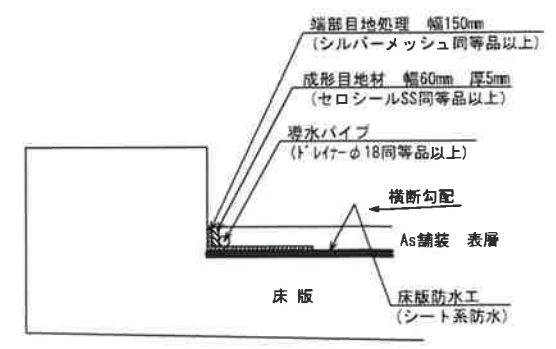


端部止水処理要領図

P3~P4径間



A1~P3, P4~A2径間



- 注記
1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
 2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
 3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名			
図面名	城平跨線橋 舗装打換え、床版防水工(その2)		
作成年月日	平成30年12月 日		
縮尺	図示	図面番号	25 /
会社名	株式会社 構造技研新潟		
事業者名	湯沢町地域整備部建設課		

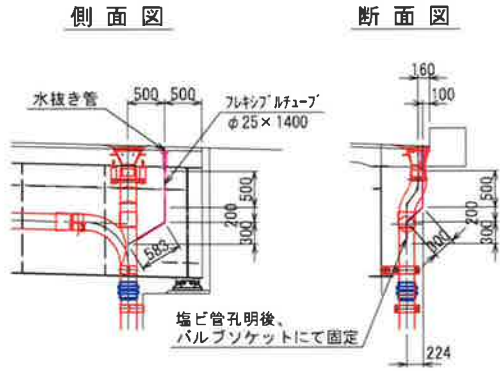
城平跨線橋 舗装打換え、床版防水工(その3)

水抜き管導水要領 S=1/50

桁端部

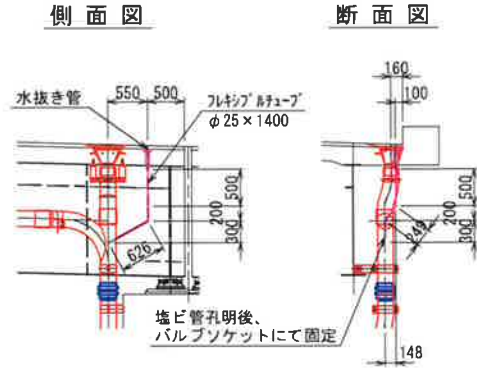
A1桁端部

施工箇所：1箇所



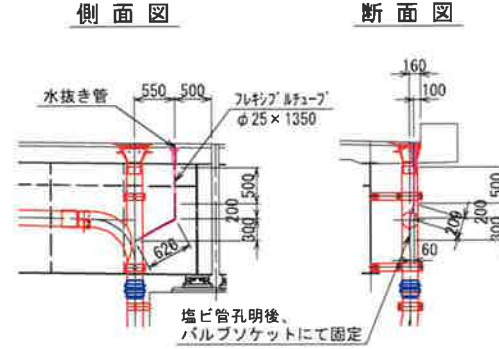
P1桁端部

施工箇所：1箇所



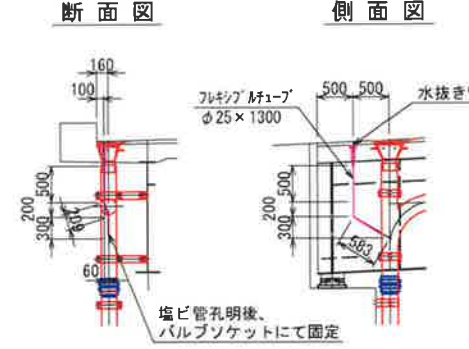
P2, P5~P7桁端部

施工箇所：8箇所



A2桁端部

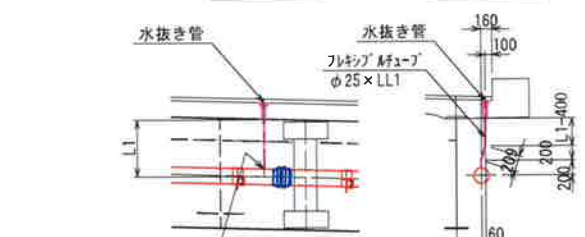
施工箇所：2箇所



中間部(排水樹間)

施工箇所：N箇所

側面図 断面図



寸法表

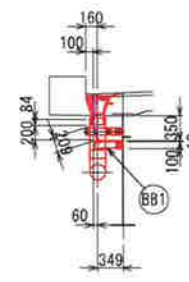
径間	L1	LL1	N
A1-P1	782	800	1
P1-P2	744	750	1
P2-P3 (新潟側)	690	700	1
P2-P3 (東京側)	713	700	1
P4-P5 (新潟側)	640	650	1
P4-P5 (東京側)	632	650	1
P5-P6	599	600	2
P6-P7	597	600	2
P7-A2	597	600	2

※L1は主桁Web上端から横引き管中心までの間隔を示す。
※フレキシブルチューブの長さは、現場削孔後に計測の上、決定のこと。

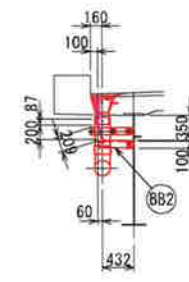
中間部(横引き無し区間)

A1~P2

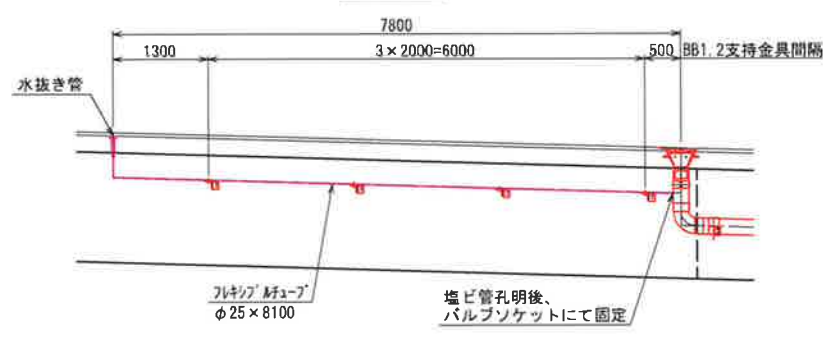
A1~P1 断面図
施工箇所：1箇所



P1~P2 断面図
施工箇所：1箇所



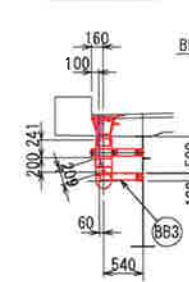
側面図



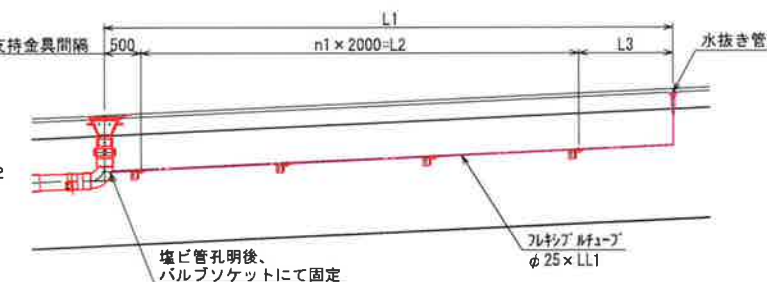
P2~A2

施工箇所：N箇所

断面図



側面図

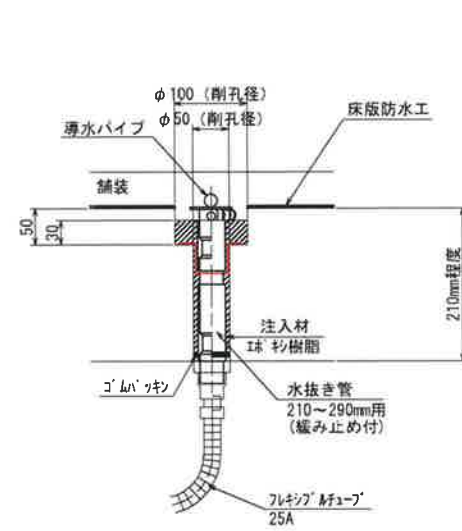


寸法表

径間	L1	n1	L2	L3	LL1	N	BB3設置数
P2-P3 (新潟側)	5000	2	4000	500	5450	1	3
P2-P3 (東京側)	6650	3	6000	150	7100	1	4
P4-P5 (新潟側)	6650	3	6000	150	7100	1	4
P4-P5 (東京側)	5000	2	4000	500	5450	1	3
P5-P6	7800	3	6000	1300	8250	2	8
P6-P7	7800	3	6000	1300	8250	2	8
P7-A2	7800	3	6000	1300	8250	2	8

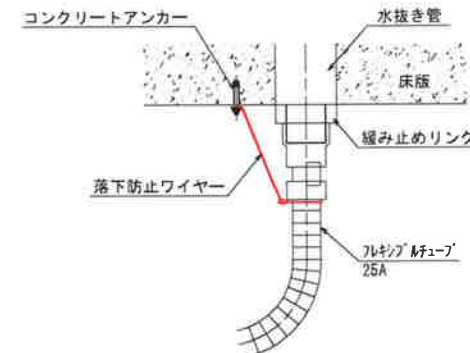
水抜き管参考図 S=1/5

施工箇所：36箇所



※削孔位置は、既設鉄筋を避けた位置とすること。
※床版厚は、削孔位置にて確認をすること。
※フレキシブルチューブの流末処理は、現地状況に合わせて施工すること。

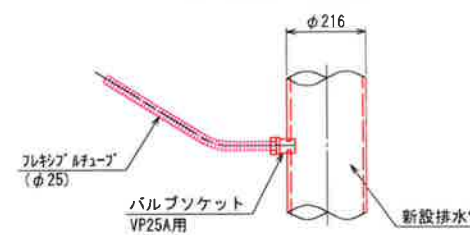
接続部落下防止対策 S=1/3



※落下防止対策材料は、本体に1セット込み

流末処理要領図 S=1/10

施工箇所：36箇所



※バルブソケットは、VP溶接で新設排水管に取り付ける。

注記)

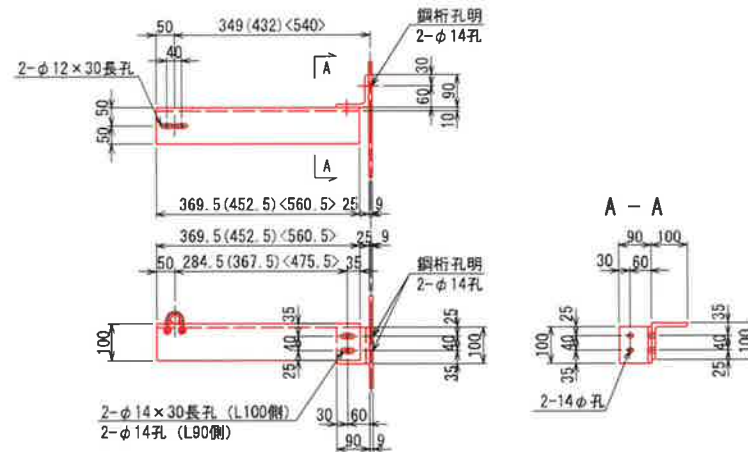
1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名			
図面名	城平跨線橋 舗装打換え、床版防水工(その3)		
作成年月日	平成30年12月 日		
縮尺	図示	図面番号	26 /
会社名	株式会社 構造技研新潟		
事業者名	湯沢町地域整備部建設課		

城平跨線橋 舗装打換え、床版防水工(その4)

支持金具 S=1/10

BB1 (BB2) <BB3>
(製作数 : 4 (4) <38>)



- | | | |
|---------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| BB1材料 (1組当たり) | BB2材料 (1組当たり) | BB3材料 (1組当たり) |
| 1-L 90 × 90 × 10 × 100 | 1-L 90 × 90 × 10 × 100 | 1-L 90 × 90 × 10 × 100 |
| 1-L 100 × 100 × 10 × 370 | 1-L 100 × 100 × 10 × 453 | 1-L 100 × 100 × 10 × 561 |
| 1-Uボルト 呼び20 C形
(2-1種Nut, 2-3種Nut付) | 1-Uボルト 呼び20 C形
(2-1種Nut, 2-3種Nut付) | 1-Uボルト 呼び20 C形
(2-1種Nut, 2-3種Nut付) |
| 4-BN M12 × 40 (2-W付) | 4-BN M12 × 40 (2-W付) | 4-BN M12 × 40 (2-W付) |

端部防水処理工数量

	長さ (m)	員数	数量 (m)	備考
導水パイプ	38.497	1	38.50	A1~P1
	38.622	1	38.62	P1~P2
	56.266	1	56.27	P2~P3
	31.723	1	31.72	P3~P4 (車道部)
	31.652	1	31.65	P3~P4 (車道部)
	56.267	1	56.27	P4~P5
	66.600	1	66.60	P5~P6
	66.600	1	66.60	P6~P7
	66.600	1	66.60	P7~A2
	合計			452.8
成形目地材 端部目地処理	77.600	1	77.60	A1~P1
	77.600	1	77.60	P1~P2
	69.004	1	69.00	P2~P3
	92.052	1	92.05	P3~P4 (車道部)
	71.469	2	142.94	P3~P4 (歩道部)
	68.969	1	68.97	P4~P5
	77.600	1	77.60	P5~P6
	77.600	1	77.60	P6~P7
77.600	1	77.60	P7~A2	
合計			761.0	

区画線工数量

	長さ (m)	員数	数量 (m)	備考
実線、15cm	27.800	2	55.60	A1~P1
	27.800	2	55.60	P1~P2
	22.633	2	45.27	P2~P3
	33.306	2	66.61	P3~P4 (車道部)
	22.634	2	45.27	P4~P5
	27.800	2	55.60	P5~P6
	27.800	2	55.60	P6~P7
	27.800	2	55.60	P7~A2
	合計			435.2
破線、15cm	27.800	1	27.80	A1~P1
	27.800	1	27.80	P1~P2
	22.633	1	22.63	P2~P3
	33.306	1	33.31	P3~P4 (車道部)
	22.634	1	22.63	P4~P5
	27.800	1	27.80	P5~P6
	27.800	1	27.80	P6~P7
	27.800	1	27.80	P7~A2
合計			217.6	

舗装打換え面積

	幅 (m)	長さ (m)	面積 (m2)
A1~P1	(11.000-0.300)	27.800	297.46
P1~P2	(11.000-0.300)	27.800	297.46
P2~P3	(11.000-0.300)	22.633	242.17
P3~P4 (車道部)	(11.000-0.300)	33.306	356.37
P3~P4 (歩道部)	1.300	34.000	44.20
P3~P4 (歩道部)	1.300	34.000	44.20
P4~P5	(11.000-0.300)	22.634	242.18
P5~P6	(11.000-0.300)	27.800	297.46
P6~P7	(11.000-0.300)	27.800	297.46
P7~A2	(11.000-0.300)	27.800	297.46
合計			2416.4

床版防水工面積

	幅 (m)	長さ (m)	面積 (m2)
A1~P1	(11.000-0.300)	27.800	297.46
P1~P2	(11.000-0.300)	27.800	297.46
P2~P3	(11.000-0.300)	22.633	242.17
P3~P4 (車道部)	(11.000-0.300)	33.306	356.37
P3~P4 (歩道部)	1.300	34.000	44.20
P3~P4 (歩道部)	1.300	34.000	44.20
P4~P5	(11.000-0.300)	22.634	242.18
P5~P6	(11.000-0.300)	27.800	297.46
P6~P7	(11.000-0.300)	27.800	297.46
P7~A2	(11.000-0.300)	27.800	297.46
合計			2416.4

注記

- 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
- 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
- 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。
- 部材は、溶融亜鉛メッキ処理とし、その上に塗装を施す。付着量は、JIS H8641 HDZ 55 とする。但し ボルト、ナット類は、HDZ 35 とする。
- 特記なき材質は、全てSS400とする。
- ナットは、全て弛み止めナットを使用すること。

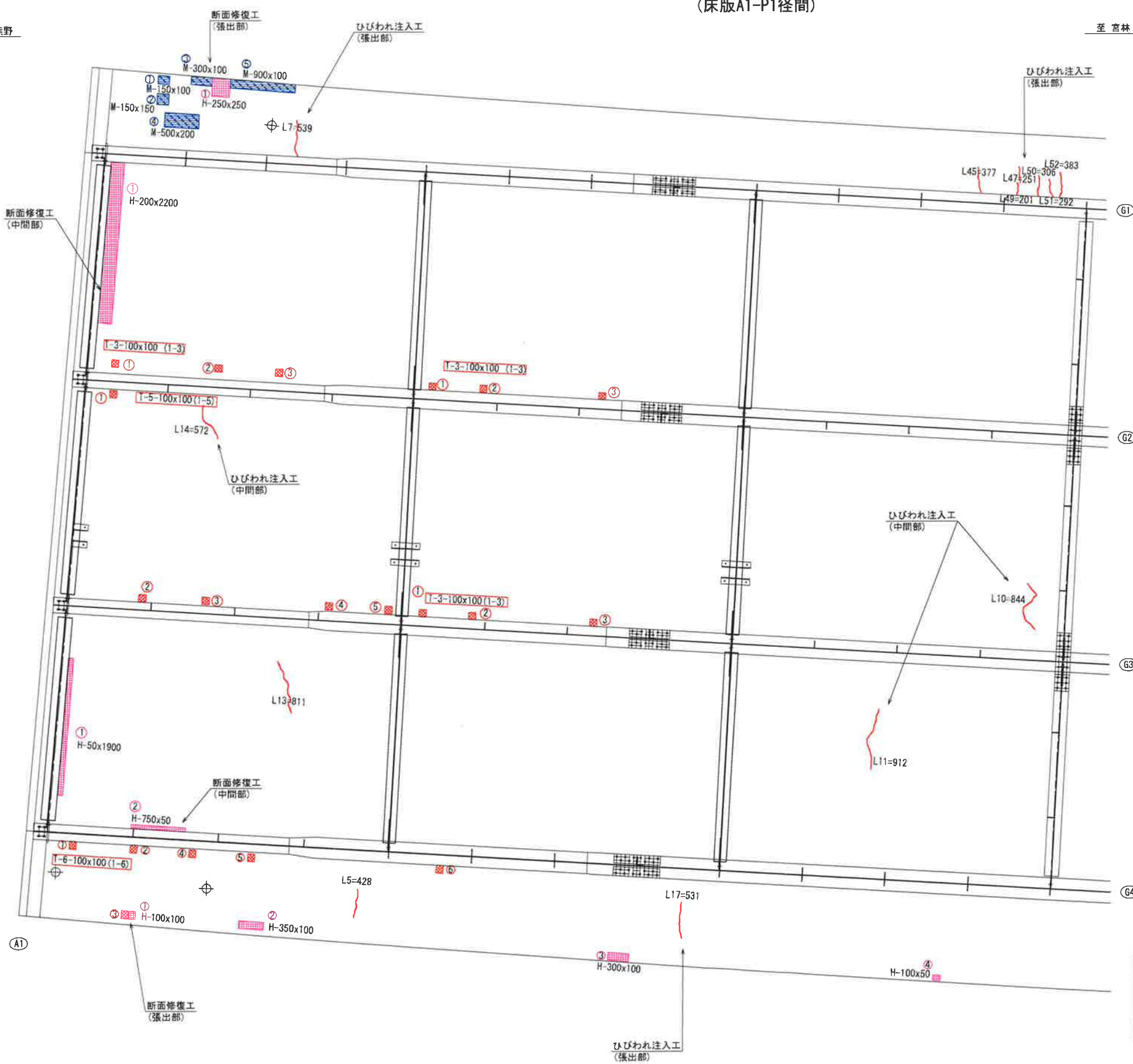
工事名	
図面名	城平跨線橋 舗装打換え、床版防水工(その4)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 27 /
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

城平跨線橋 床版補修工(その1) S=1/30

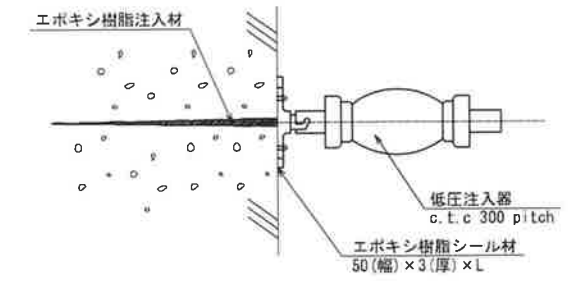
(床版A1-P1径間)

至上熊野

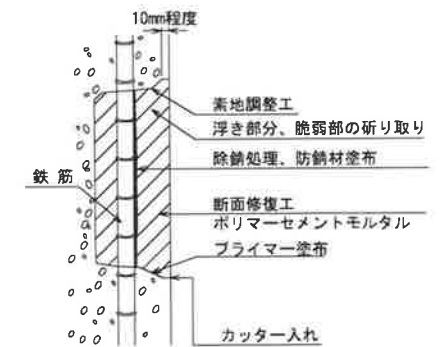
至宮林



ひびわれ注入工



断面修復工 左官工法



- 注記)
- ・補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
 - ・断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
 - ・断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
 - ・断面修復箇所及び数量は、現地にて確認すること。
 - ・かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

- 注記)
1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
 2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
 3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

凡例

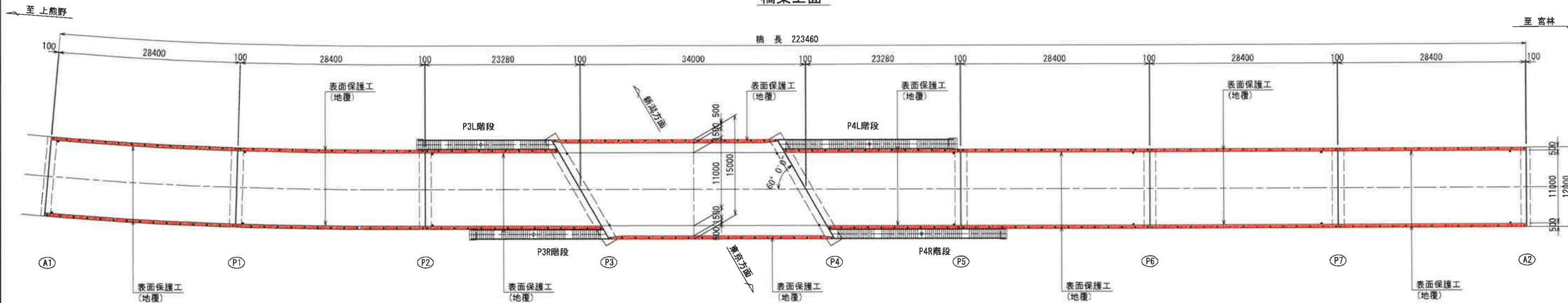
	0.2mm以上のひびわれ
	鉄筋露出
	剥離
	豆板

工事名	
図面名	城平跨線橋 床版補修工(その1)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 28 /
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

城平跨線橋 地覆部表面保護工

平面図 S=1/300

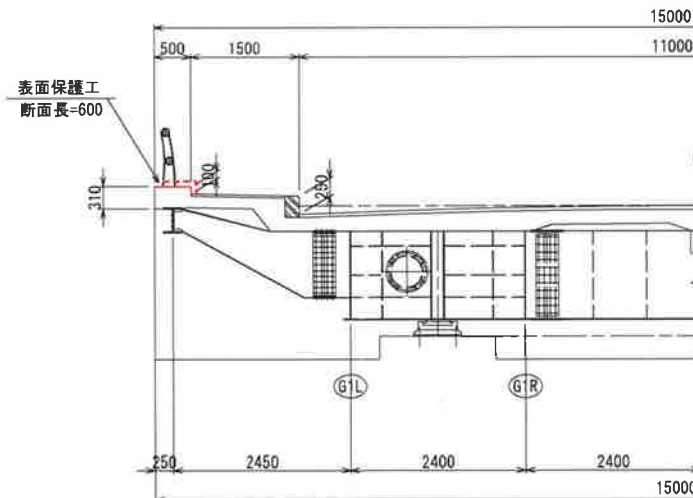
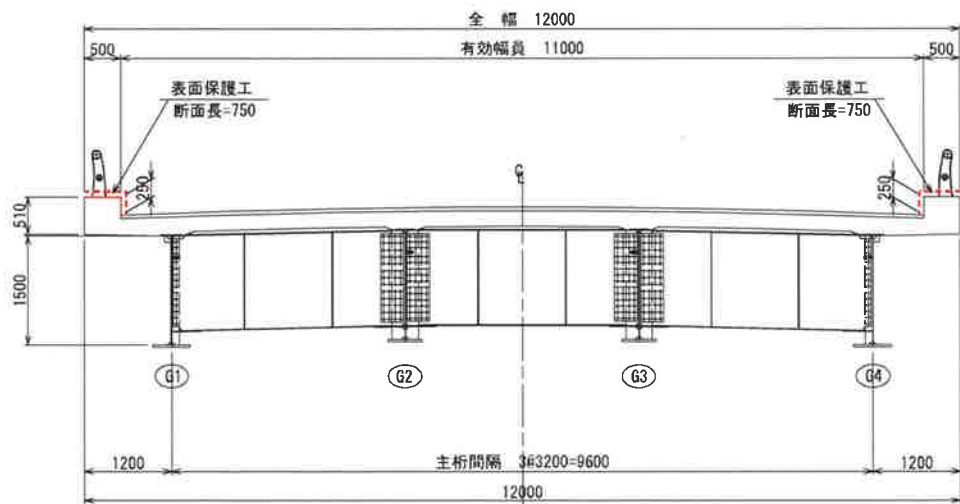
橋梁上面



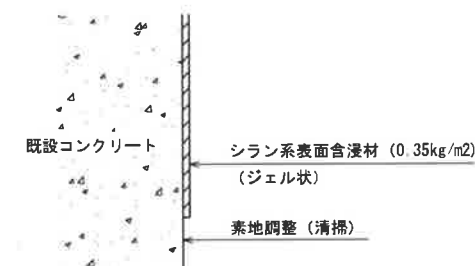
断面図 S=1/50

A1-P3, P4-A2

P3-P4



表面保護工詳細図



※表面含浸材の選定について
 ・土木研究所「第4186号に基づく性能評価」合格品であること。
 ・断面修復後に含浸材塗布は通常行われている施工であるもの、
 断面修復材によっては事前に相性確認の試験施工を行うこと。
 (事前に表面含浸材メーカーに施工実績の確認を行うこと)
 (表面含浸材メーカーにて無償サンプルの提供を受けることが可能)

表面保護工 施工面積

径間	断面長(m)	施工延長(m)	員数	施工面積(m ²)
A1-P1	0.750	28.400	2	42.60
P1-P2	0.750	28.400	2	42.60
P2-P3	0.750	23.280	2	34.92
P3-P4	0.600	34.000	2	40.80
P4-P5	0.750	23.280	2	34.92
P5-P6	0.750	28.400	2	42.60
P6-P7	0.750	28.400	2	42.60
P7-A2	0.750	28.400	2	42.60
合計施工面積				323.64

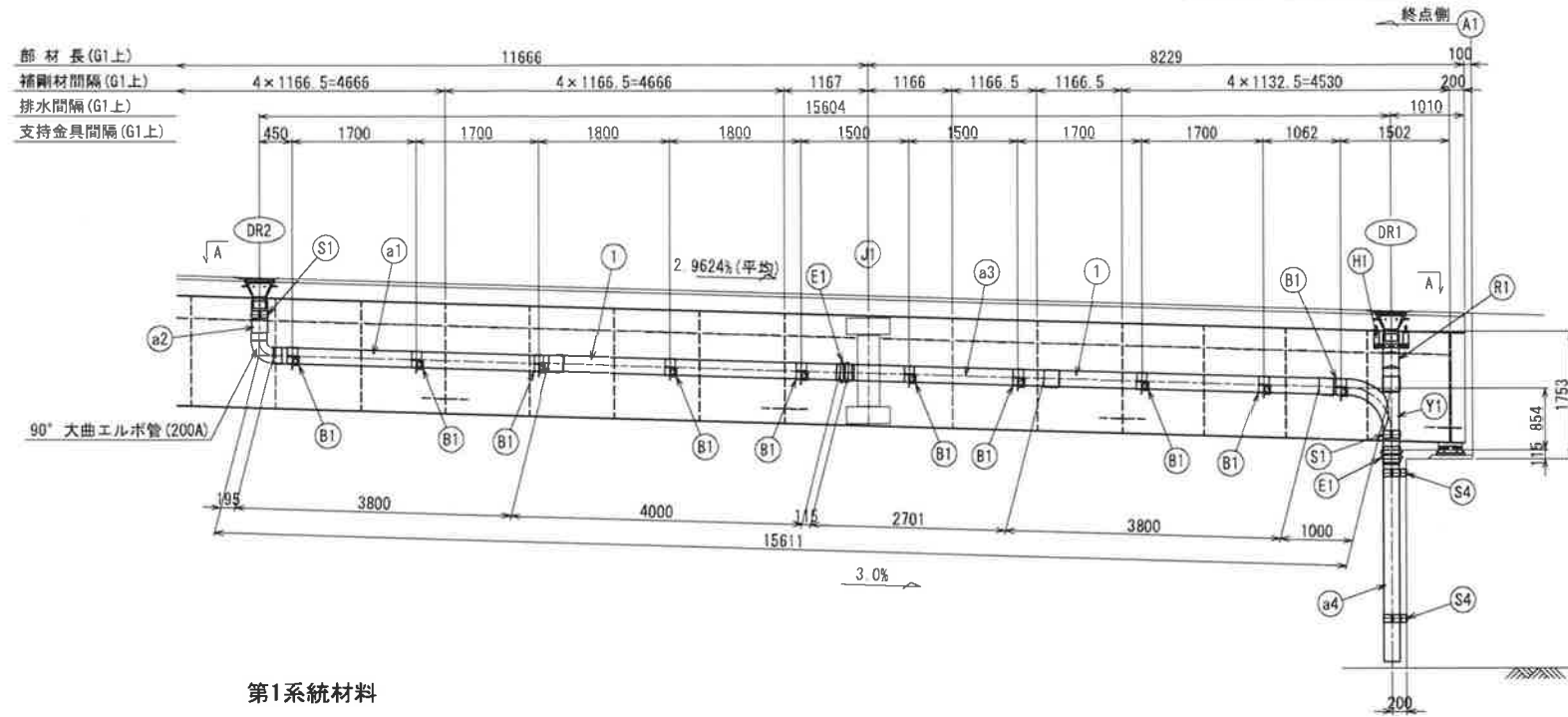
注記)

- 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
- 施工に際しては、必ず現地に補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。

工事名	
図面名	城平跨線橋 地覆部表面保護工
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 42 /
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

城平跨線橋 排水装置(その2)

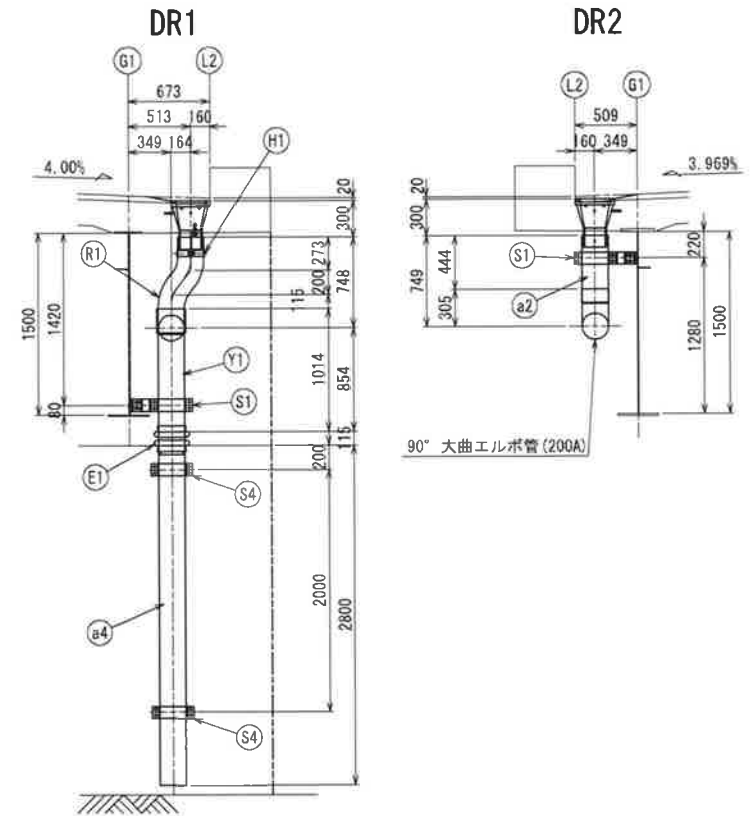
第1系統図 S=1/50



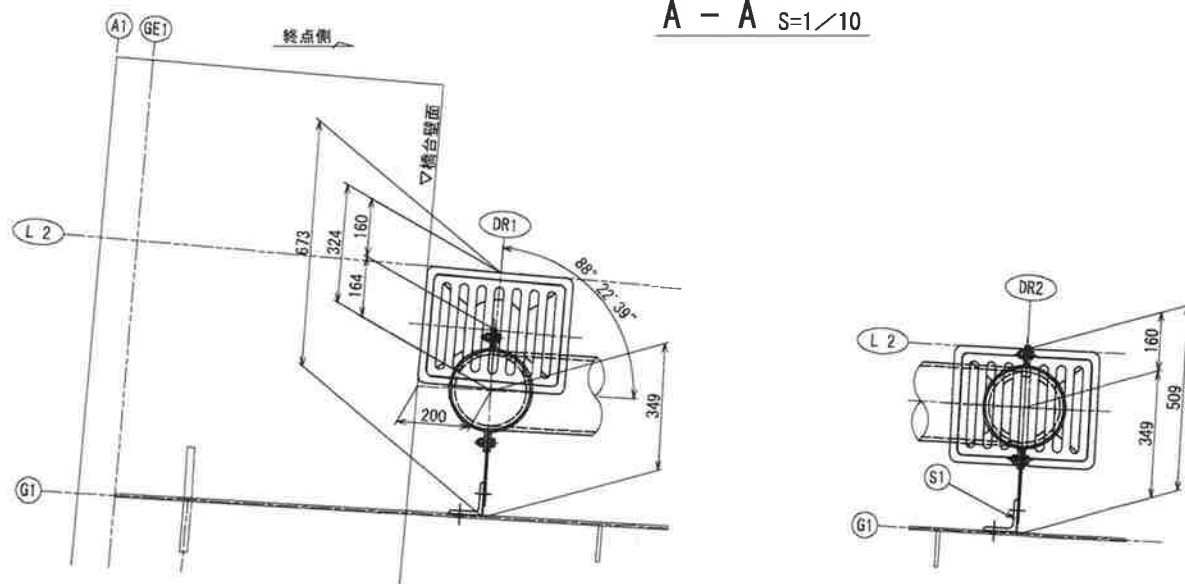
第1系統材料

直管 (スリーブ付) ①	2-VP 200A x 4000	加工管 ①	1 個	支持金具 ①	2 個
直管 (スリーブ無) ②	1-VP 200A x 4000	加工管 ②	1 個	支持金具 ②	2 個
③	1-VP 200A x 554	伸縮管 ③	2 個	支持金具 ③	10 個
④	1-VP 200A x 2901			支持金具 ④	1 個
⑤	1-VP 200A x 2800	90° 大曲エルボ管(200A)	1 個		

断面図 S=1/30



A - A S=1/10



注記)

1. 現橋の寸法を現場にて確認した後に、製作、施工を行うこと。

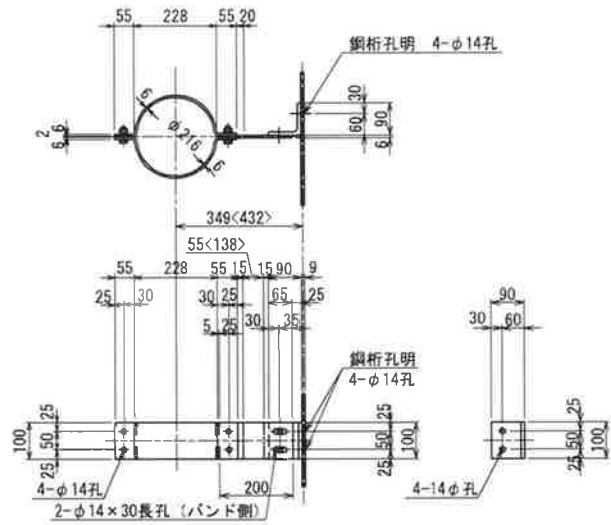
工事名	
図面名	城平跨線橋 排水装置(その2)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 53 /
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

城平跨線橋 排水装置(その11)

支持金具、排水柵 S=1/10

S1 <S2>

(製作数: 2<2>)



S1材料(1組当たり)

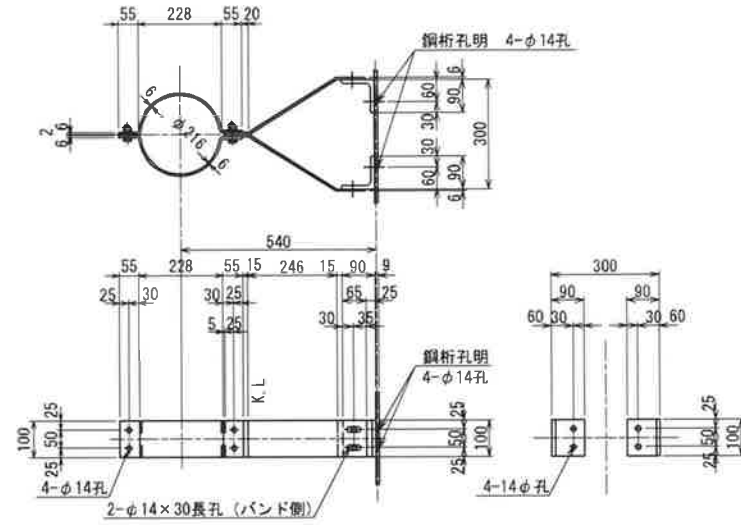
- 2-FB 100×6×452
- 1-FB 100×6×200
- 1-L 90×90×10×100
- 2-BN M12×35 (1-W付)
- 2-BN M12×40 (1-W付)
- 4-BN M12×40 (1-W付)

S2材料(1組当たり)

- 2-FB 100×6×452
- 1-FB 100×6×283
- 1-L 90×90×10×100
- 2-BN M12×35 (1-W付)
- 2-BN M12×40 (1-W付)
- 4-BN M12×40 (1-W付)

S3

(製作数: 30)

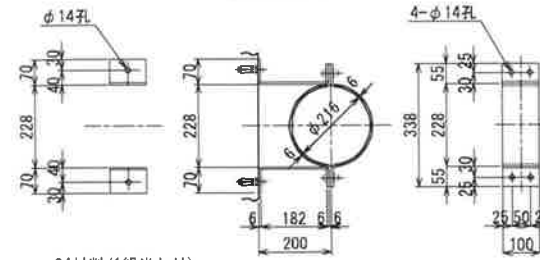


S3材料(1組当たり)

- 2-FB 100×6×452
- 2-FB 100×6×434
- 2-L 90×90×10×100
- 2-BN M12×35 (1-W付)
- 2-BN M12×40 (1-W付)
- 8-BN M12×40 (1-W付)

S4

(製作数: 65)

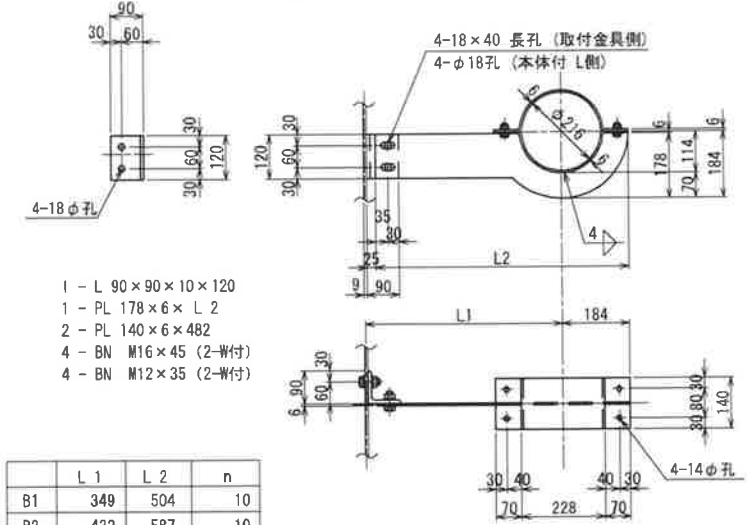


S4材料(1組当たり)

- 2-PL 100×6×459
- 2-PL 100×6×318
- 4-B.N M12×40 (2-W付)
- 2-ホールインアンカー M12×100

Bn

(製作数: 10)

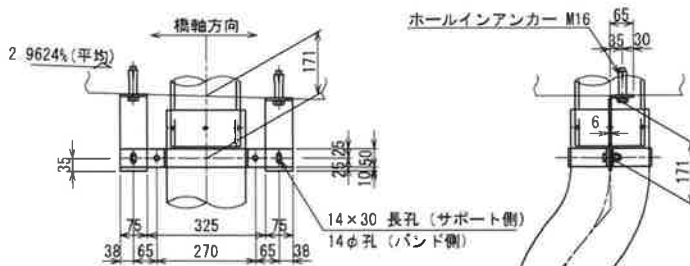
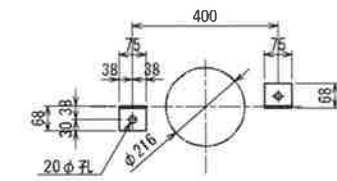


- 1-L 90×90×10×120
- 1-PL 178×6×L2
- 2-PL 140×6×482
- 4-BN M16×45 (2-W付)
- 4-BN M12×35 (2-W付)

	L1	L2	n
B1	349	504	10
B2	432	587	10
B3	540	695	82

H1

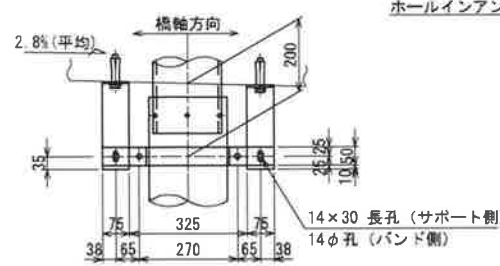
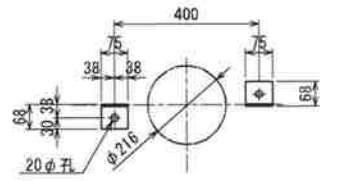
(製作数: 1)



- 1-PL 75×6×276
- 1-PL 75×6×265
- 2-PL 50×6×584
- 4-BN M12×40 (2-W付)
- 2-ホールインアンカー M16×100

H2

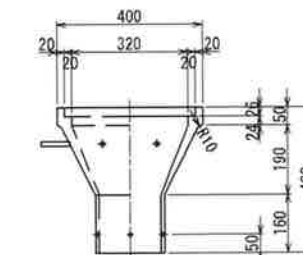
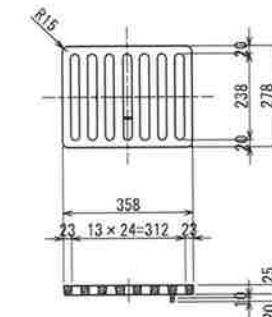
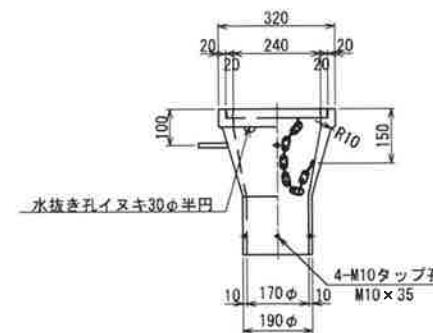
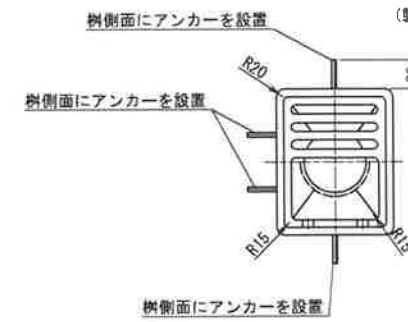
(製作数: 1)



- 1-PL 75×6×306
- 1-PL 75×6×284
- 2-PL 50×6×584
- 4-BN M12×40 (2-W付)
- 2-ホールインアンカー M16×100

排水柵

(製作数: 24)

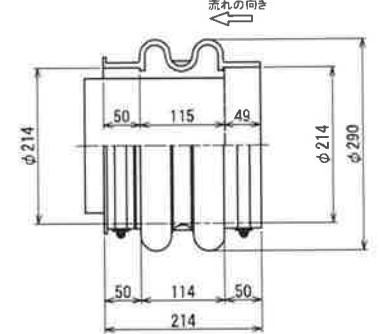


伸縮管 S=1/5

E1

(製作数: 24)

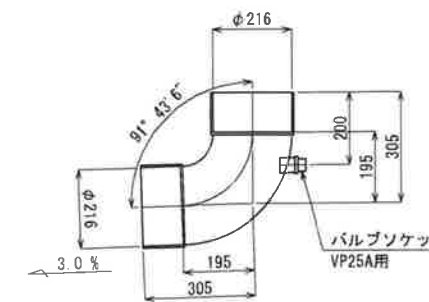
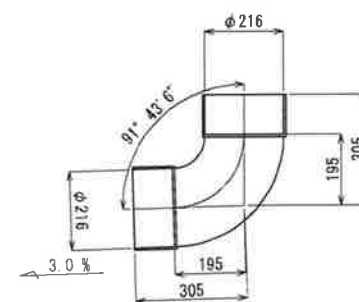
MECジョイント φ200 R-2



90° 大曲エルボ管(200A)

(製作数: 2) A1-P2間

(製作数: 10) P2-A2間



注記)

1. 現橋の寸法を現場にて確認した後に、製作、施工を行うこと。
2. 部材は、溶融亜鉛メッキ処理とし、その上に塗装を施す。付着量は、JIS H8641 HDZ 55 とする。但し ボルト、ナット類は、HDZ 35 とする。
3. 特記なき材質は、全てSS400とする。
4. ナットは、全て締め止めナットを使用すること。

工事名	城平跨線橋 排水装置(その11)
図面名	城平跨線橋 排水装置(その11)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 62 /
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

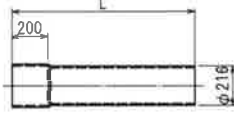
城平跨線橋 排水装置(その12)

排水管詳細 S=1/20

直管 VP200A

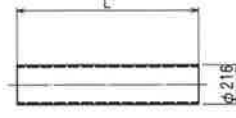
(製作数: N)

① ② ④ ~ ⑨



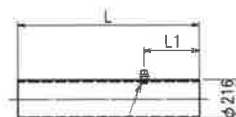
200A	L	N
①	4000	20
②	2000	1
④	3500	1
⑤	2198	2
⑥	3600	3
⑦	2300	2
⑧	1200	2
⑨	1500	2

① a1 ③ a3 ④ a4 ⑥ a6 ⑦ a7 ⑨ a9 ~ ① a11
(スリーブなし)



200A	L	N
① a1	4000	8
③ a3	2901	2
④ a4	2800	1
⑥ a6	2898	1
⑦ a7	385	10
⑨ a9	2198	2
① a11	2201	4
③ a3	3200	2

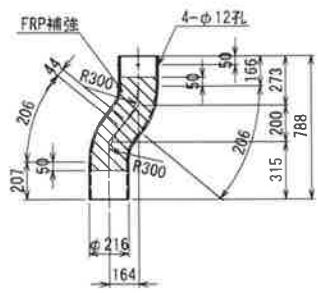
② a2 ⑤ a5 ⑧ a8
(スリーブなし、バルブソケット付)



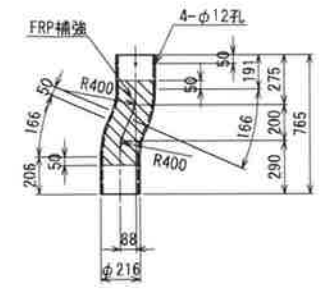
200A	L	L1	N	備考
①	4000	200	1	A1-P1
①	4000	200	1	P1-P2
①	4000	900	2	P5-P6
①	4000	900	2	P6-P7
①	4000	900	2	P7-A2
③	1095	150	2	

バルブソケット
VP25A用
a2, a5: 排水側
a8: 伸縮管側

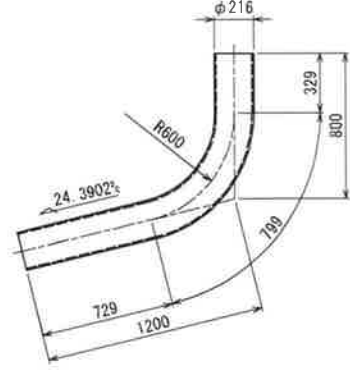
R1 (製作数: 1)



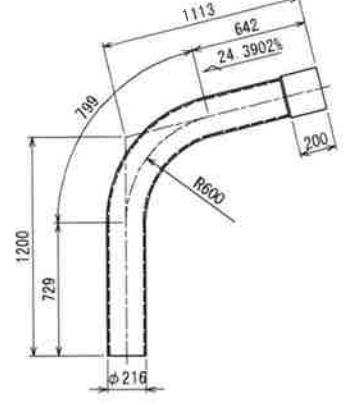
R2 (製作数: 1)



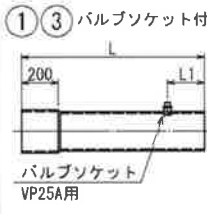
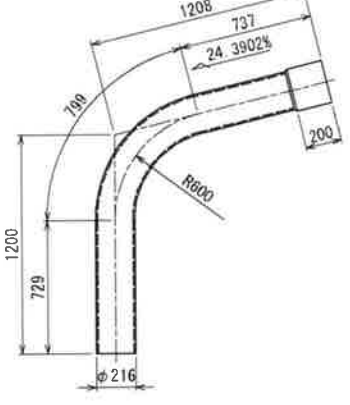
R3 (製作数: 9)



R4 (製作数: 1)



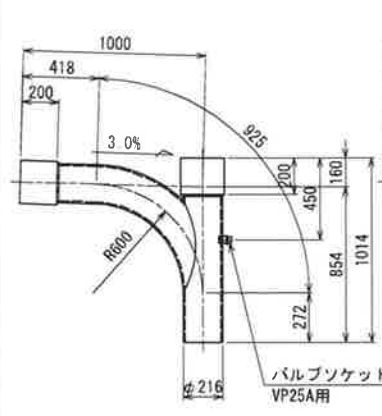
R5 (製作数: 8)



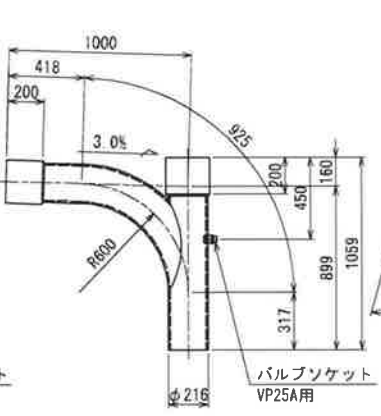
バルブソケット付

200A	L	L1	N	備考
①	4000	200	1	A1-P1
①	4000	200	1	P1-P2
①	4000	900	2	P5-P6
①	4000	900	2	P6-P7
①	4000	900	2	P7-A2
③	1095	150	2	

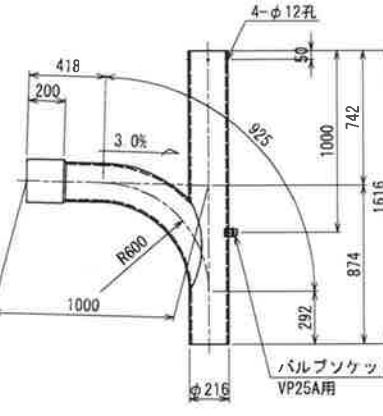
Y1 (製作数: 1)



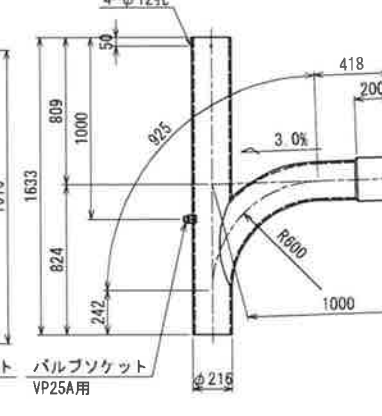
Y2 (製作数: 1)



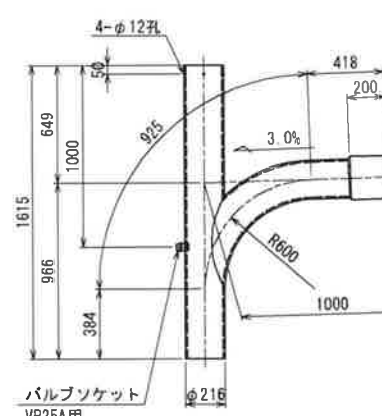
Y3 (製作数: 1)



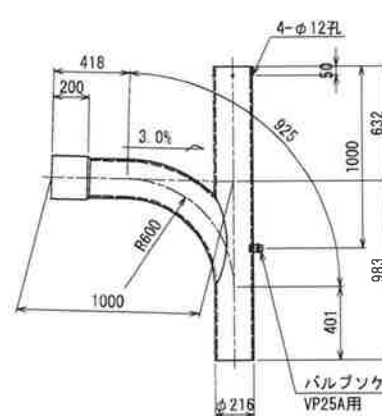
Y4 (製作数: 1)



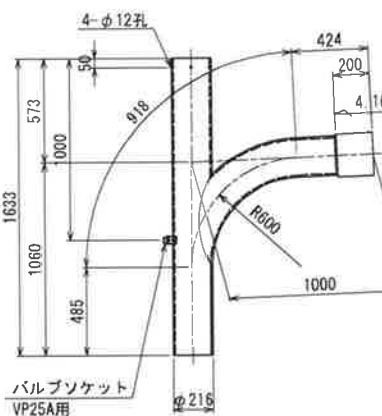
Y5 (製作数: 1)



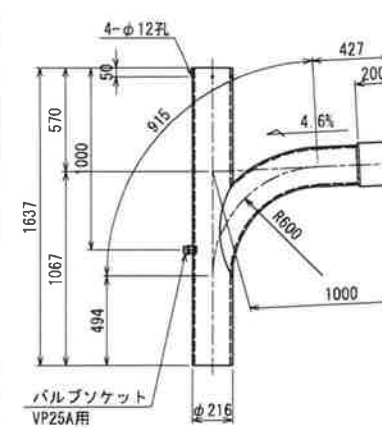
Y6 (製作数: 1)



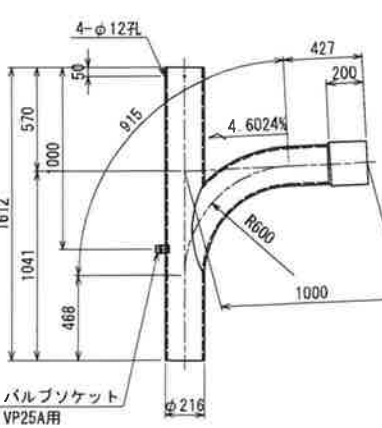
Y7 (製作数: 2)



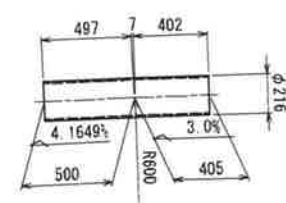
Y8 (製作数: 2)



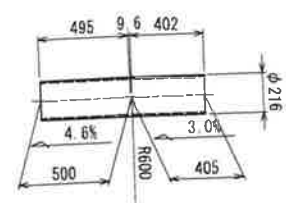
Y9 (製作数: 2)



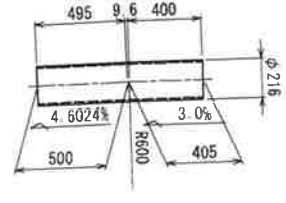
L1 (製作数: 2)



L2 (製作数: 2)

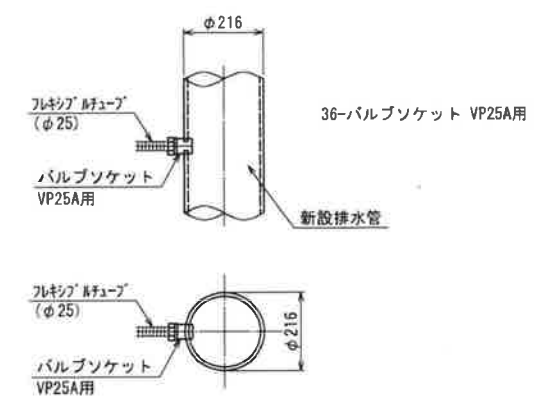


L3 (製作数: 2)



スラブドレン導水部詳細 S=1/10

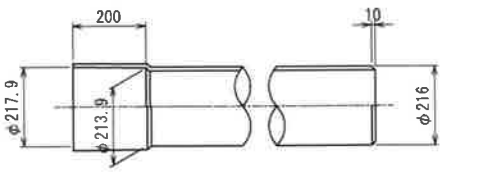
加工箇所: 36箇所



※バルブソケットは、VP溶接で新設排水管に取り付ける。

スリーブ加工寸法詳細 S=1/10

VP200A

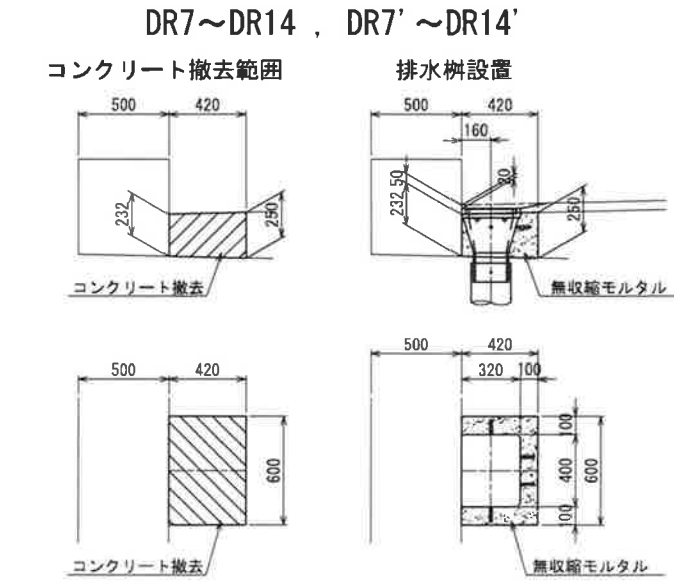
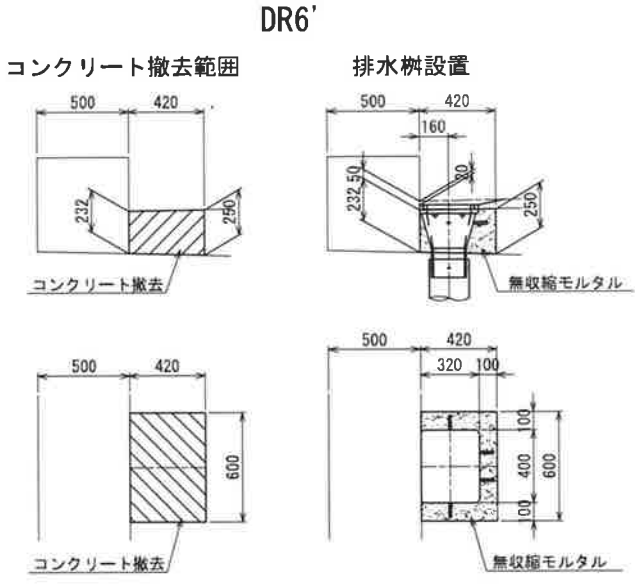
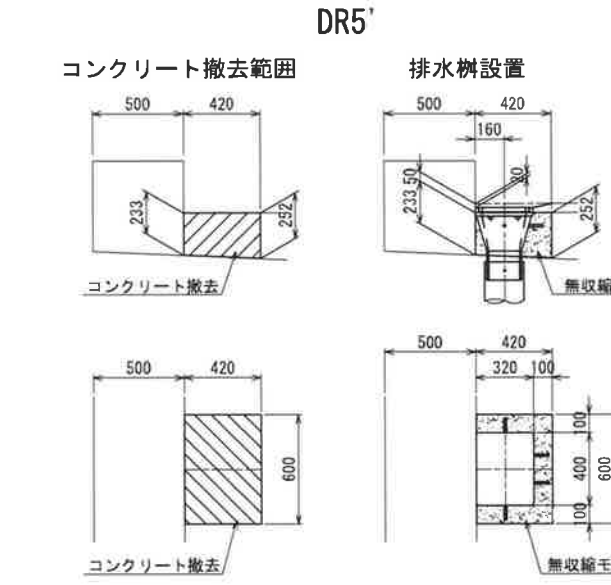
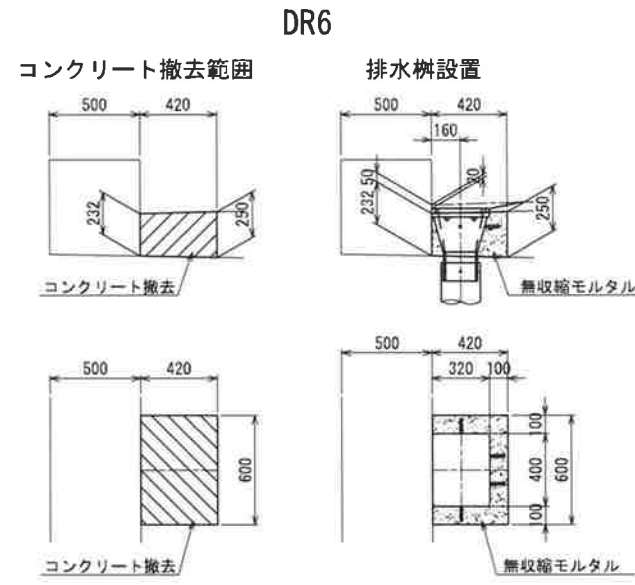
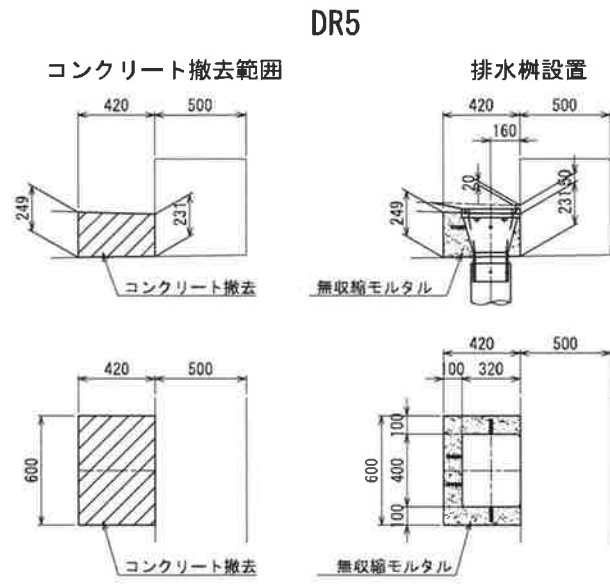
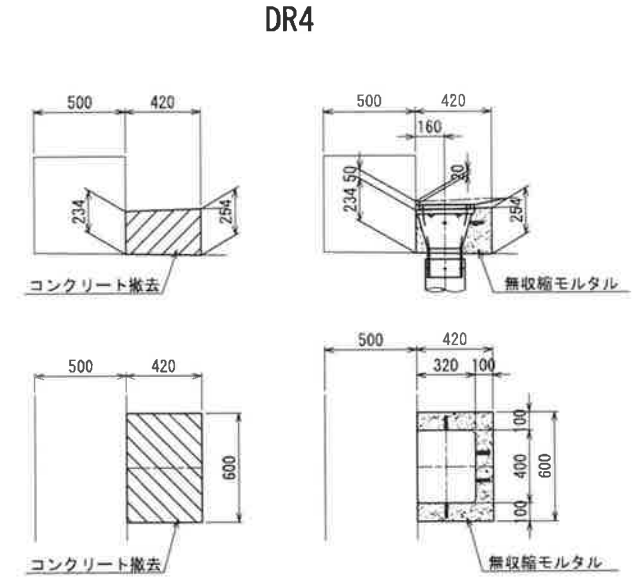
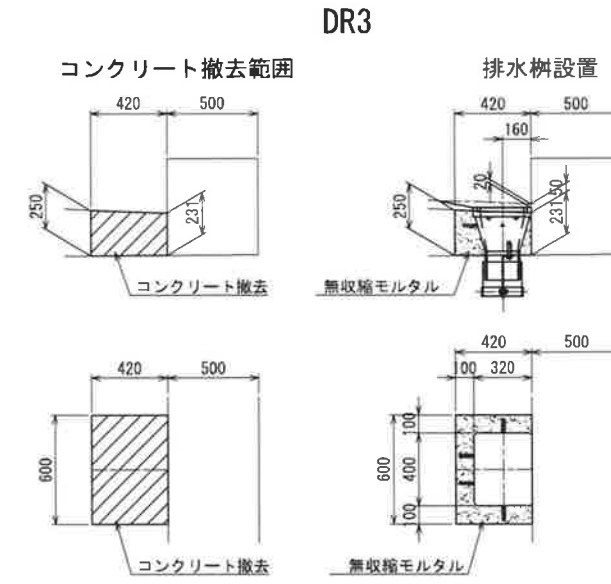
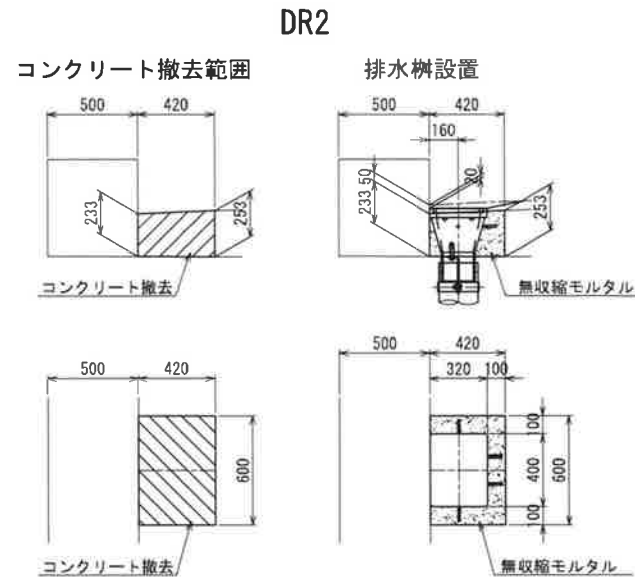
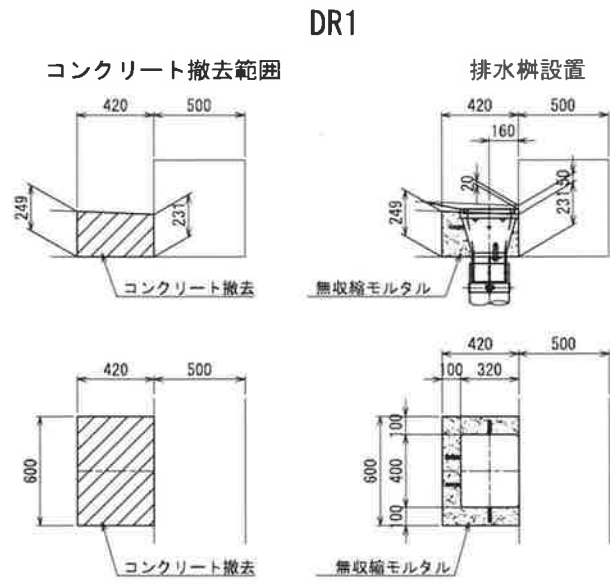


注記) 1. 現場の寸法を現場にて確認した後に、製作、施工を行うこと。

工事名	城平跨線橋 排水装置(その12)
図面名	城平跨線橋 排水装置(その12)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 63 /
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

城平跨線橋 排水装置(その13)

排水柵設置 S=1/20



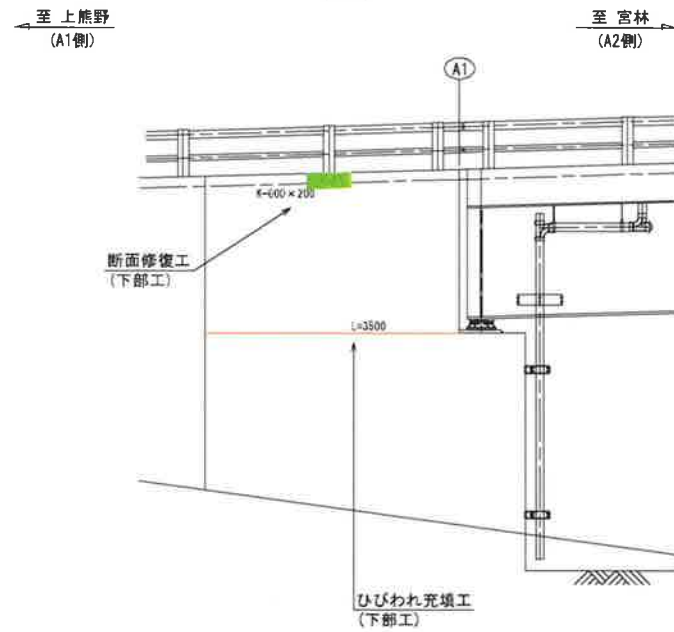
注記)

1. 現橋の寸法を現場にて確認した後に、製作、施工を行うこと。
2. 鉄筋の材質は、全て SD345 とする。
3. 既設床版鉄筋の撤去は、必要最小限に止めること。
4. 排水柵設置後の無収縮モルタル充填に際し、水抜き孔を閉塞しないこと。また、ドレーン管φ18を排水柵内に挿入できるように、天端を整形すること。

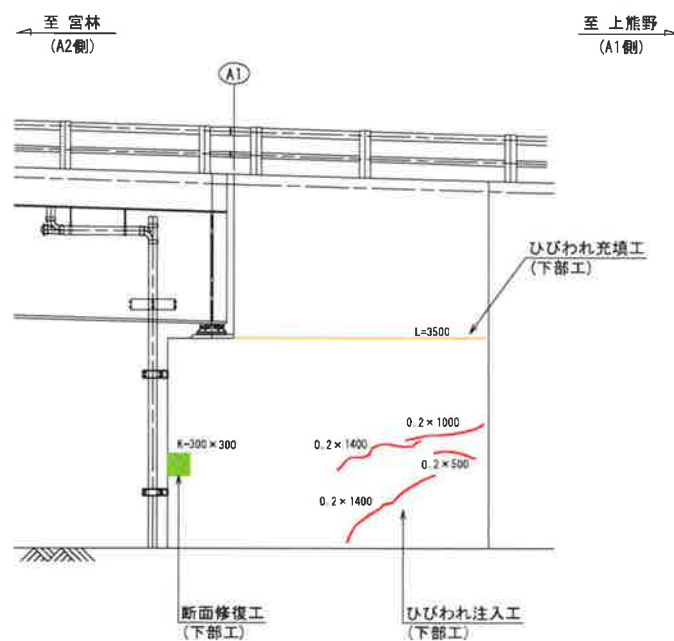
工事名	城平跨線橋 排水装置(その13)
図面名	城平跨線橋 排水装置(その13)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 64 /
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	溝沢町地域整備部建設課

A1橋台

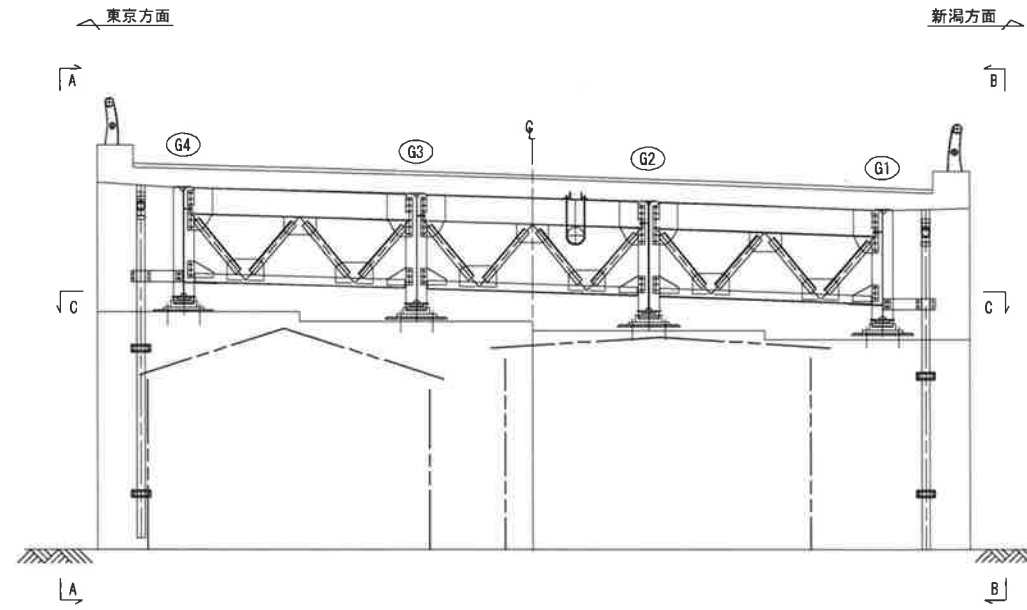
側面図 (A-A)



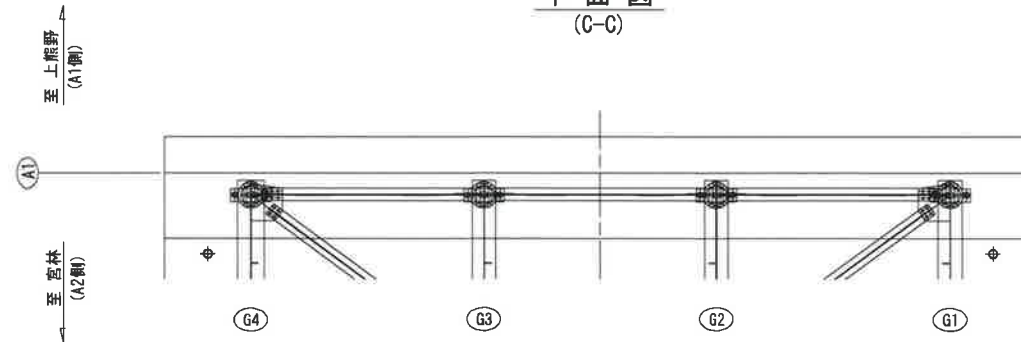
側面図 (B-B)



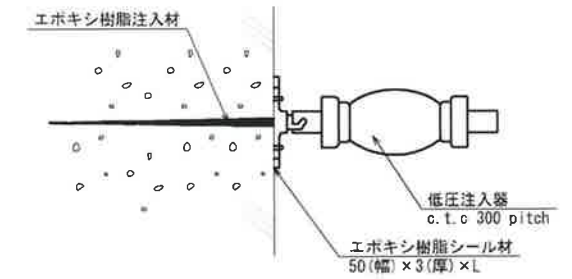
正面図



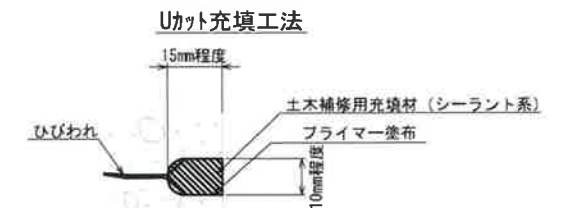
平面図 (C-C)



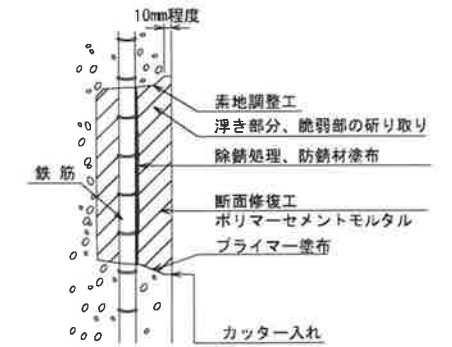
ひびわれ注入工



ひびわれ充填工



断面修復工
左官工法



- 注記)
- ・補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
 - ・断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
 - ・断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
 - ・断面修復箇所及び数量は、現地にて確認すること。
 - ・かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

凡例

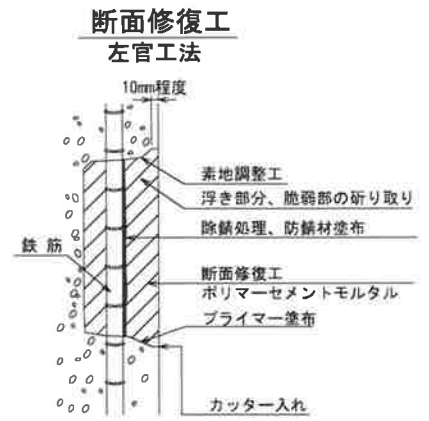
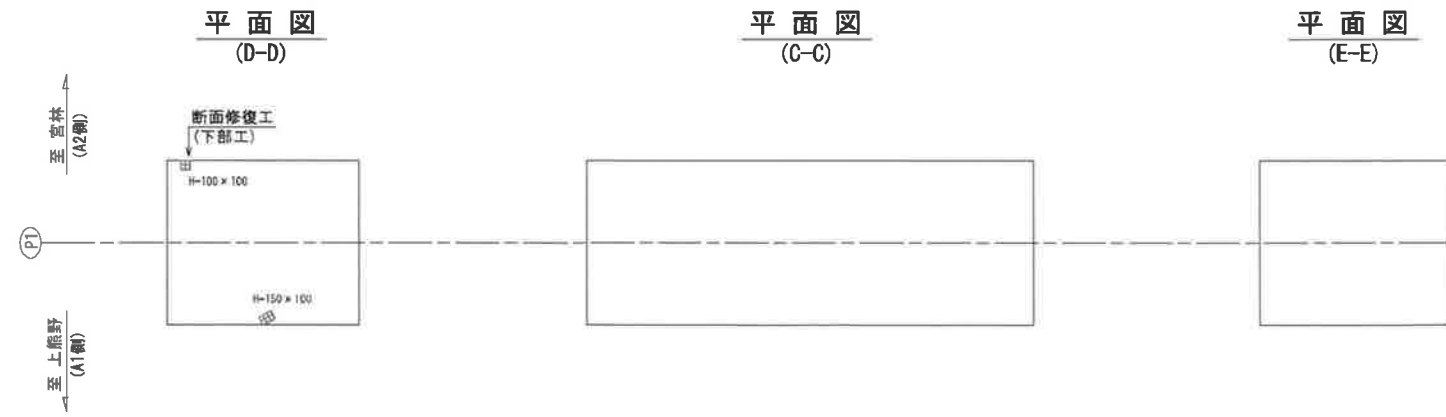
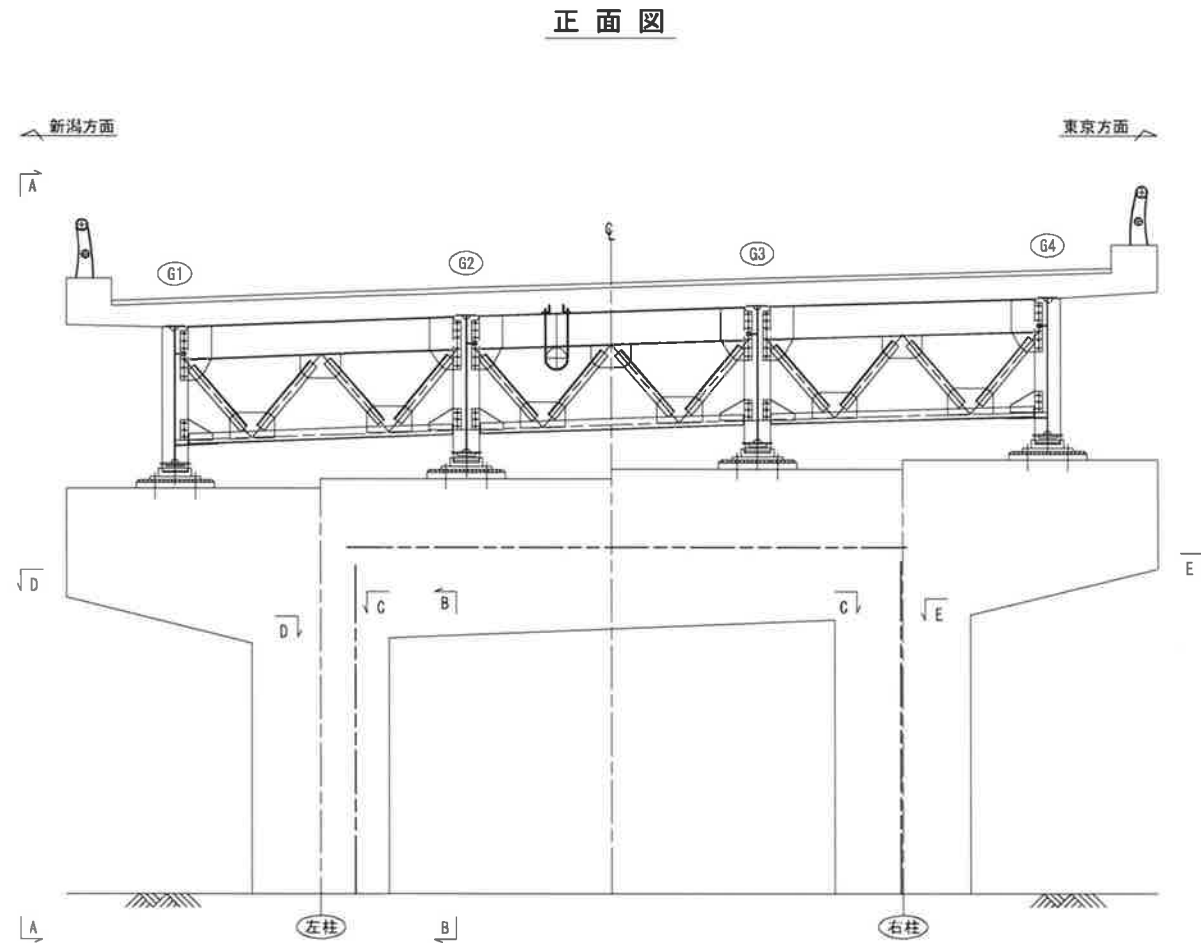
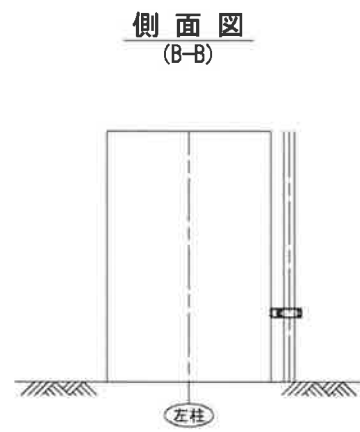
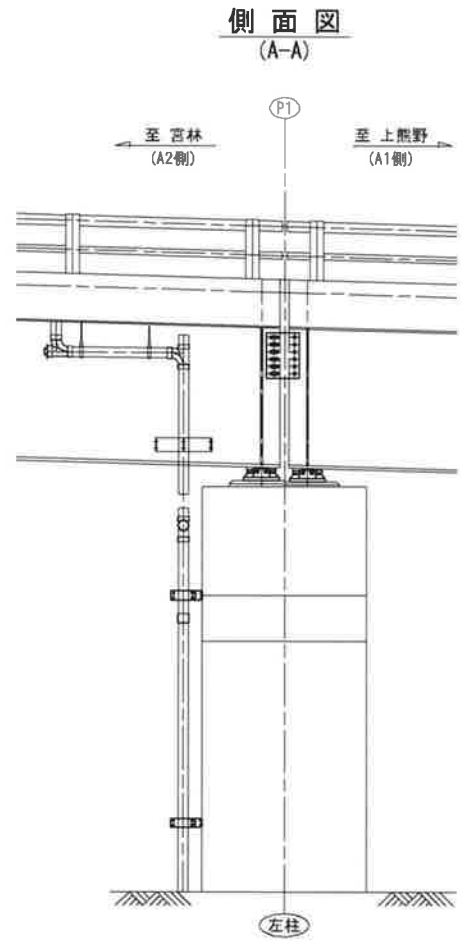
	0.2mm以上のひびわれ
	打継ぎ
	欠損

注記)

1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名			
図面名	城平跨線橋 下部工補修工(その1)		
作成年月日	平成30年12月 日		
縮尺	図示	図面番号	66 /
会社名	株式会社 構造技研新潟		
事業者名	湯沢町地域整備部建設課		

P1橋脚-起点側



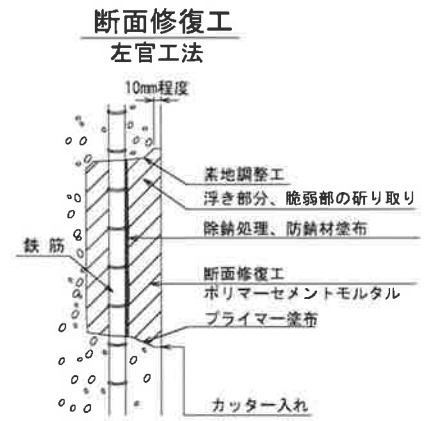
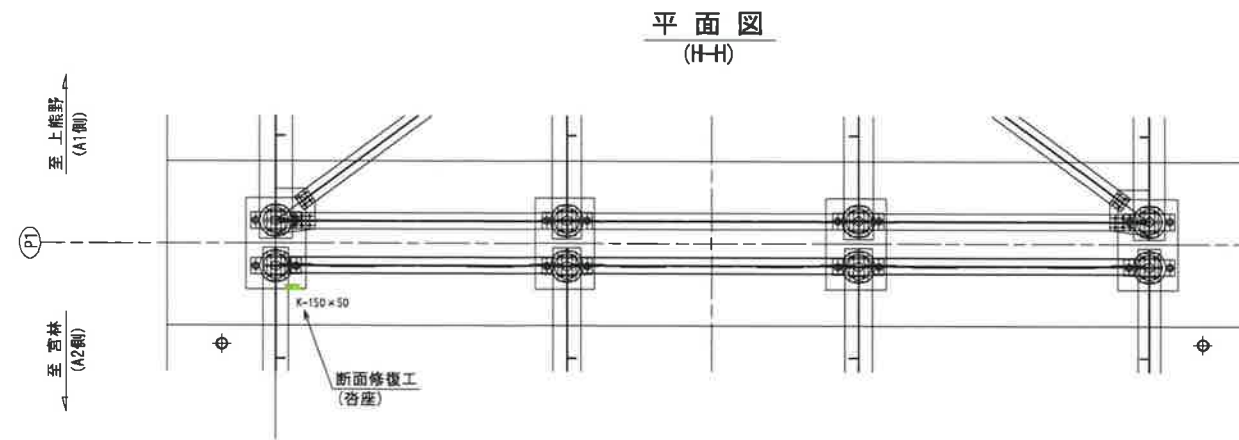
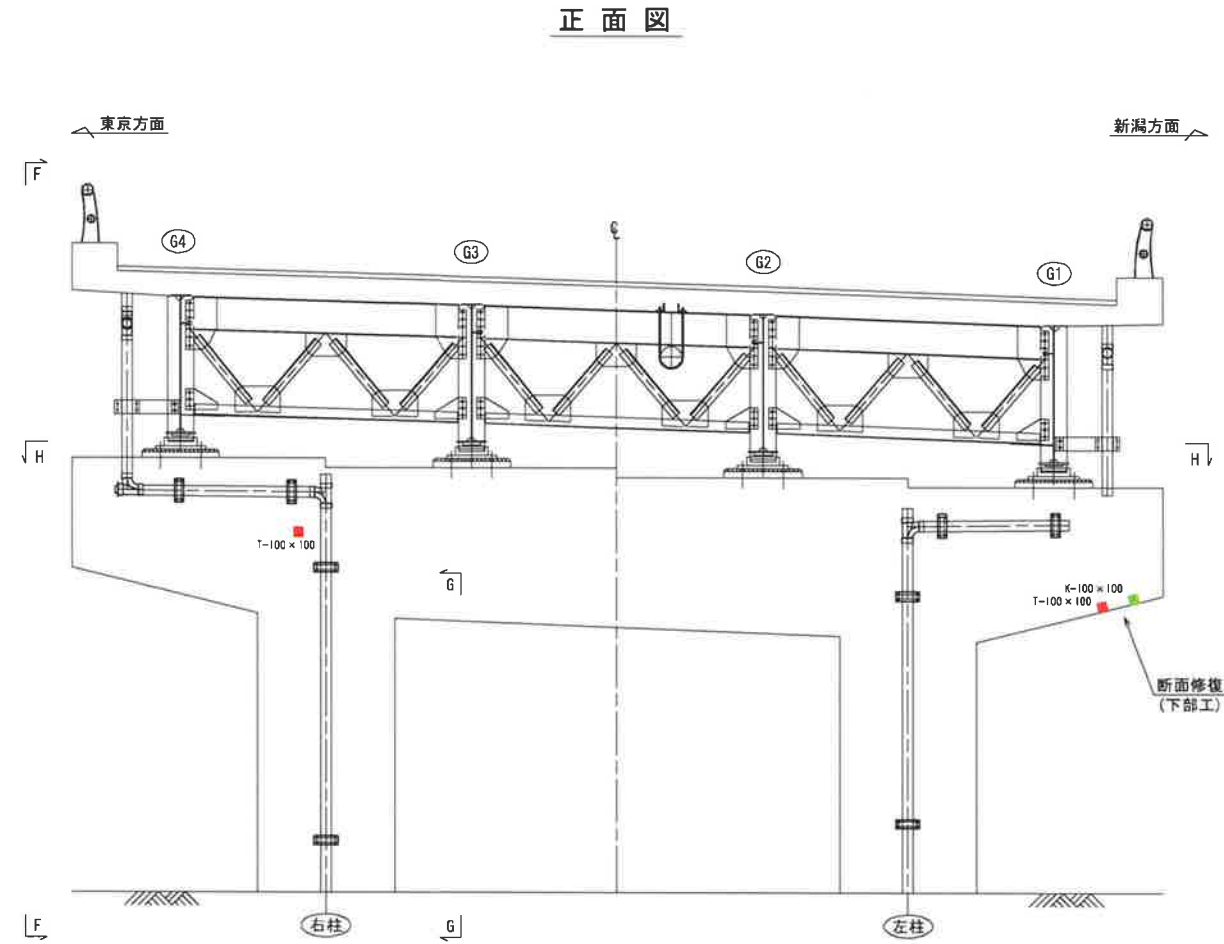
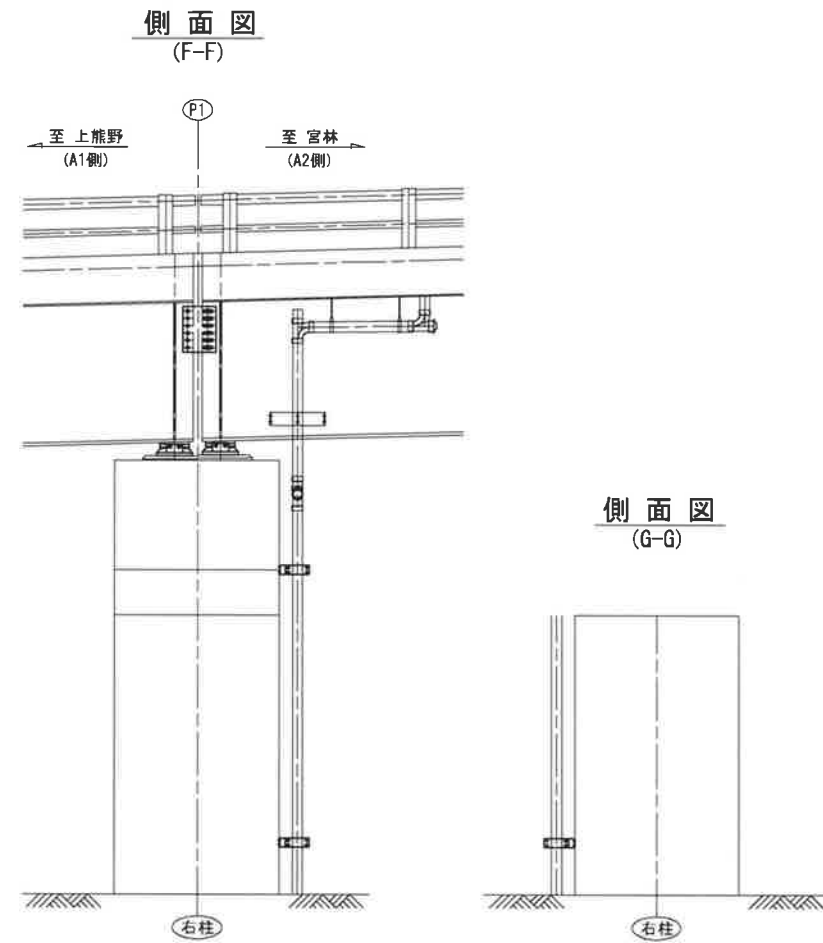
- 注記)
- ・補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
 - ・断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
 - ・断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
 - ・断面修復箇所及び数量は、現地にて確認すること。
 - ・かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。



- 注記)
1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
 2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
 3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名	
図面名	城平跨線橋 下部工補修工(その2)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 67 /
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

P1橋脚-終点側



- 注記)
- ・補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
 - ・断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
 - ・断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
 - ・断面修復箇所及び数量は、現地に確認すること。
 - ・かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

凡例

	鉄筋露出
	欠損

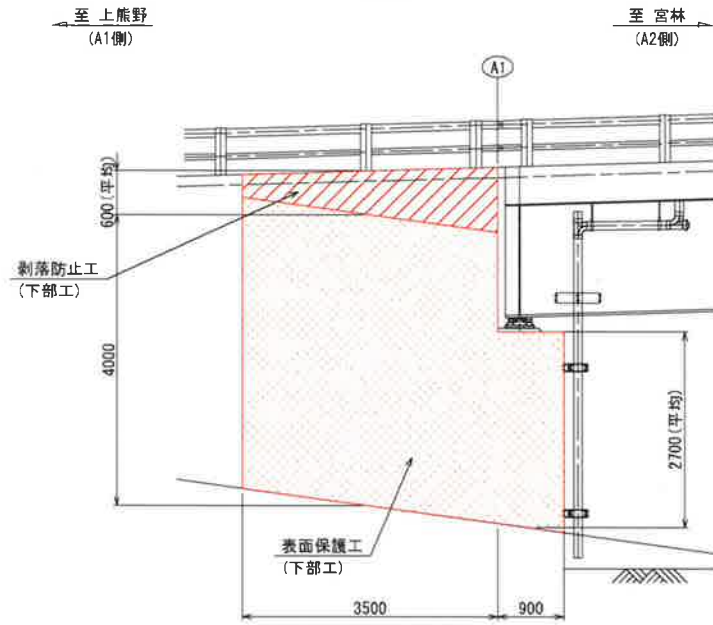
- 注記)
1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
 2. 施工に際しては、必ず現地に補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
 3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名	
図面名	城平跨線橋 下部工補修工(その3)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 68 /
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

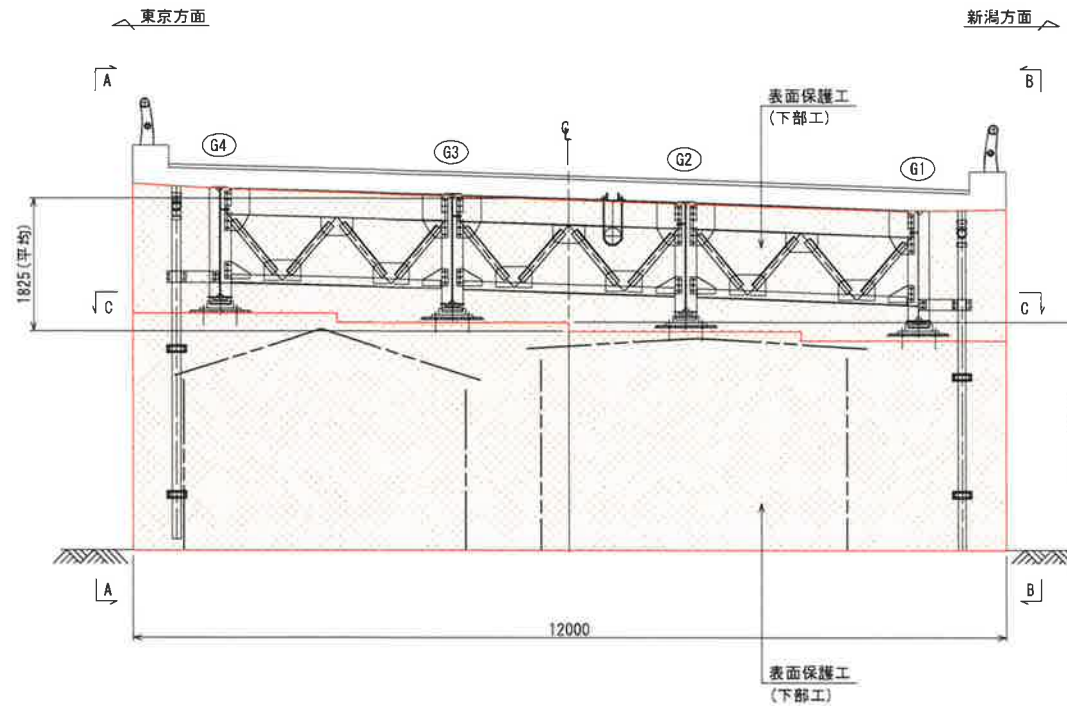
城平跨線橋 下部工表面保護工・剥落防止工(その1) S=1/50

A1橋台

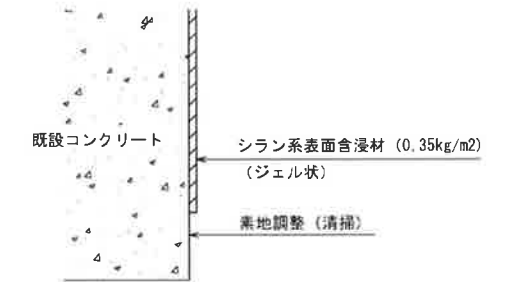
側面図 (A-A)



正面図

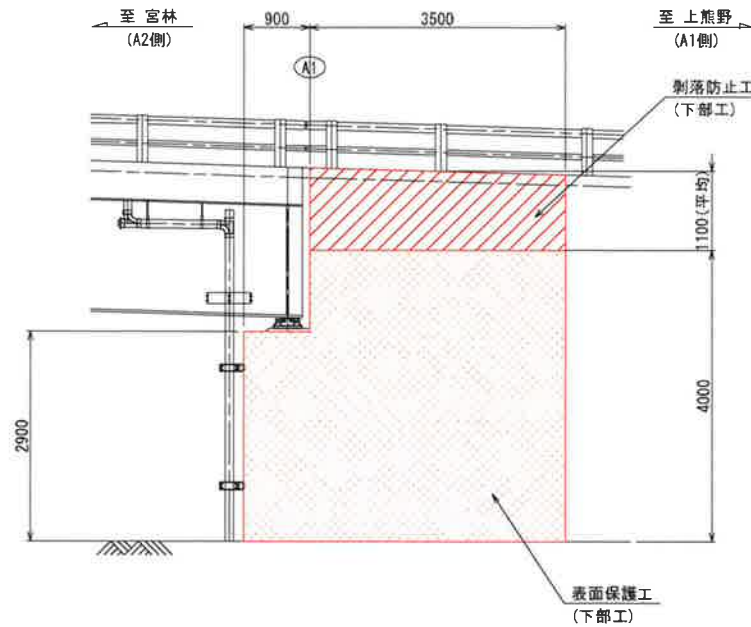


表面保護工詳細図

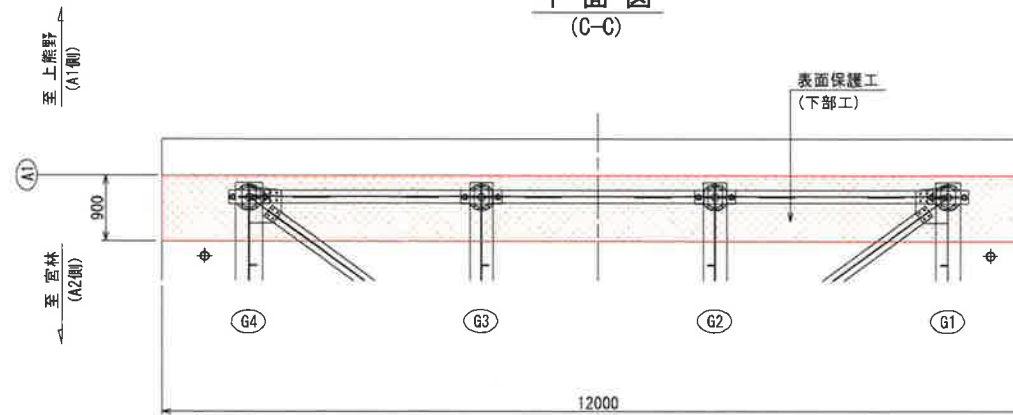


※表面含浸材の選定について
 ・土木研究所「第4186号に基づく性能評価」合格品であること。
 ・断面修復後に含浸材塗布は通常行われている施工であるものの、断面修復材によっては事前に相性確認の試験施工を行うこと。
 (事前に表面含浸材メーカーに施工実績の確認を行うこと)
 (表面含浸材メーカーにて無償サンプルの提供を受けることが可能)

側面図 (B-B)

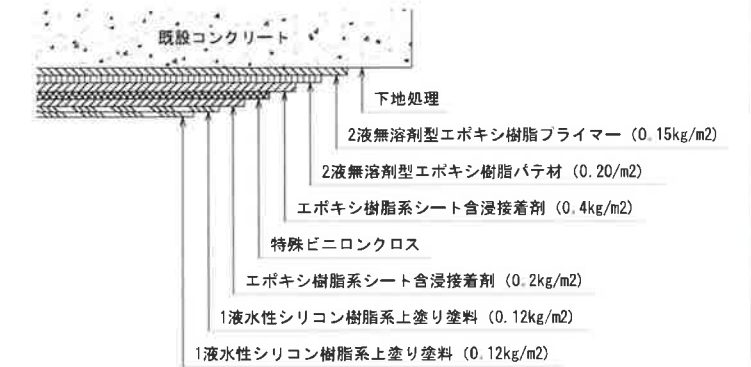


平面図 (C-C)

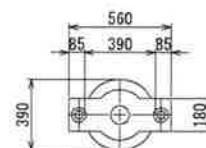


剥落防止工詳細図

透明繊維シート貼付型



支承平面積



1基当り平面積
 $0.390^2 \pi / 4 + 0.180 \times 0.085 \times 2 = 0.150m^2$

表面保護工 施工面積

箇所	幅(m)	高さ・長さ(m)	員数	施工面積(m ²)
縦壁正面	12.000	3.150 (平均)	1	37.80
側面(東京側)	3.500	4.000	1	14.00
側面(東京側)	0.900	2.700 (平均)	1	2.43
側面(新潟側)	3.500	4.000	1	14.00
側面(新潟側)	0.900	2.900	1	2.61
橋座平面	0.900	12.000	1	10.80
胸壁	12.000	1.825 (平均)	1	21.90
控除(支承部)	-	-	4	-0.60
合計施工面積				102.94

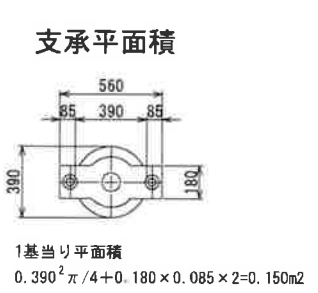
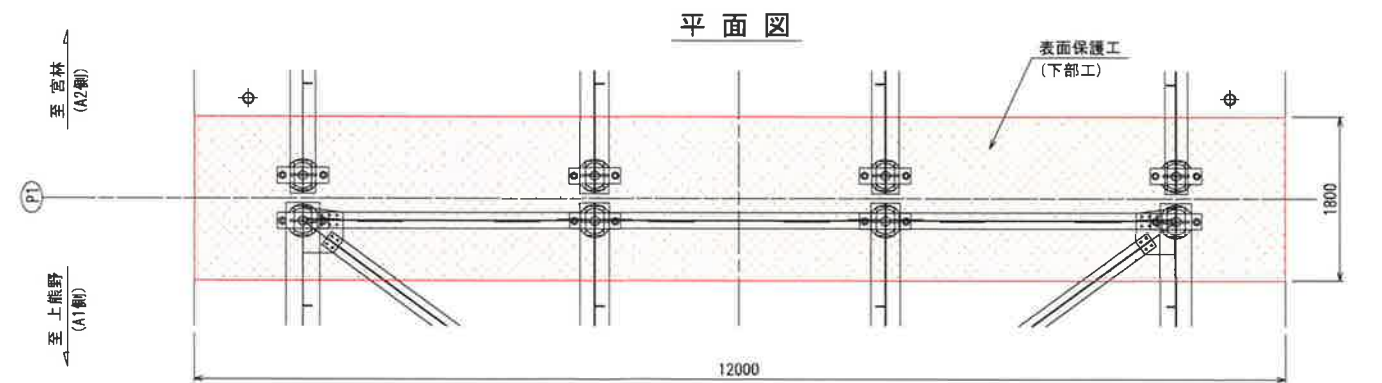
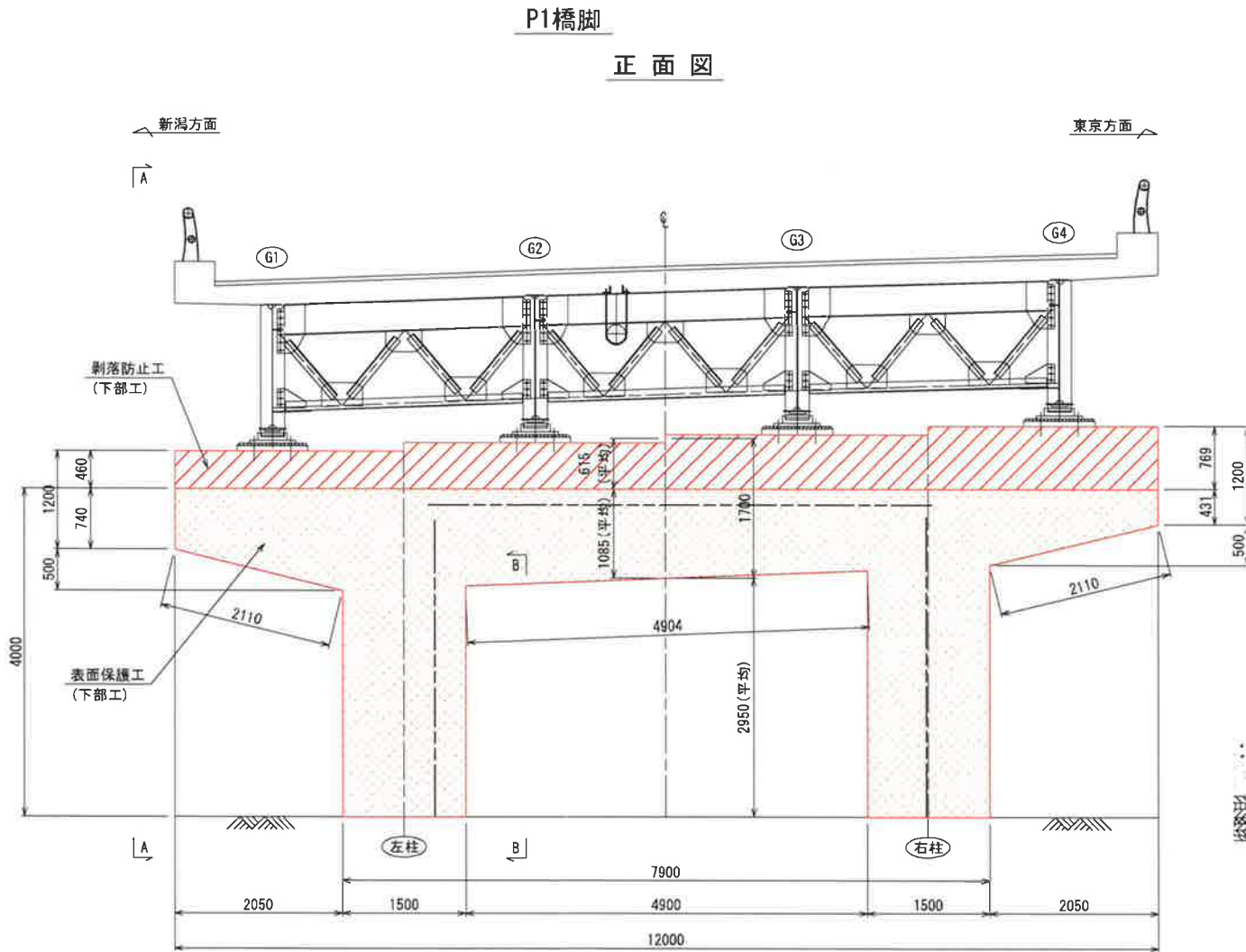
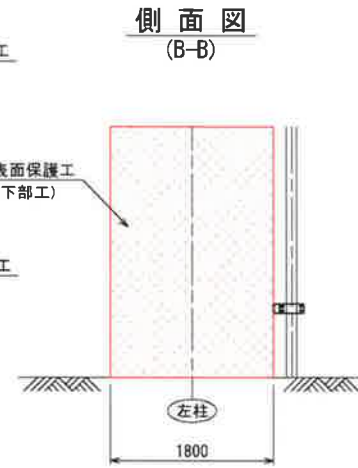
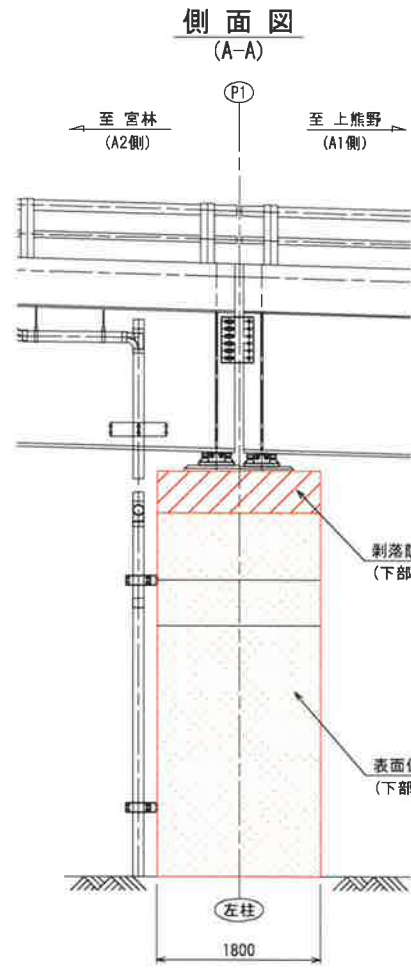
剥落防止工 施工面積

箇所	幅(m)	高さ・長さ(m)	員数	施工面積(m ²)
側面(東京側)	3.500	0.600 (平均)	1	2.10
側面(新潟側)	3.500	1.100 (平均)	1	3.85
合計施工面積				5.95

注記)
 1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
 2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
 3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名	
図面名	城平跨線橋 下部工表面保護工・剥落防止工(その1)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 79 /
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

城平跨線橋 下部工表面保護工・剥落防止工(その2) S=1/40



表面保護工 施工面積

<P1>

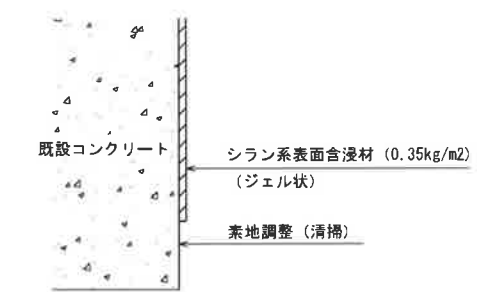
箇所	幅(m)	高さ・長さ(m)	員数	施工面積(m ²)
梁正面	1.085 (平均)	12.000	2	26.04
控除	-2.050	0.500 ÷ 2 × 4		-2.05
梁側面	0.740+0.431	1.800	1	2.11
梁下面	1.800	2.110	2	7.60
梁下面	1.800	4.904	1	8.83
柱正面	1.500	2.950 (平均)	4	17.70
柱側面	1.800	2.950 (平均)	4	21.24
梁上面	1.800	12.000	1	21.60
控除(支承部)	-0.150		4	-0.60
合計施工面積				102.47

剥落防止工 施工面積

<P1>

箇所	幅(m)	高さ・長さ(m)	員数	施工面積(m ²)
梁正面	0.615 (平均)	12.000	2	14.76
梁側面	0.460+0.769	1.800	1	2.21
合計施工面積				16.97

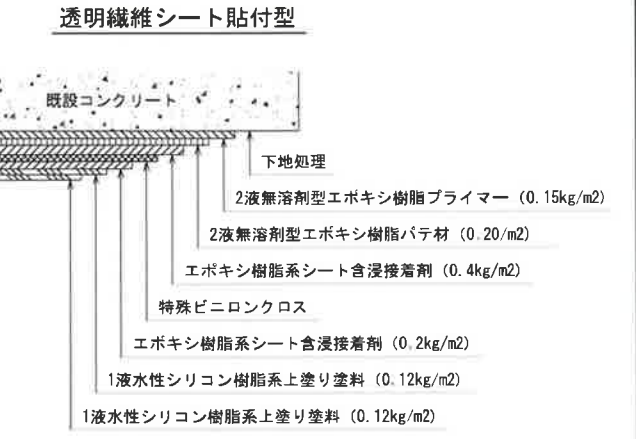
表面保護工詳細図



※表面含浸材の選定について

- ・土木研究所「第4186号に基づく性能評価」合格品であること。
- ・断面修復後に含浸材塗布は通常行われている施工であるものの、断面修復材によっては事前に相性確認の試験施工を行うこと。(事前に表面含浸材メーカーに施工実績の確認を行うこと)
- (表面含浸材メーカーにて無償サンプルの提供を受けることが可能)

剥落防止工詳細図



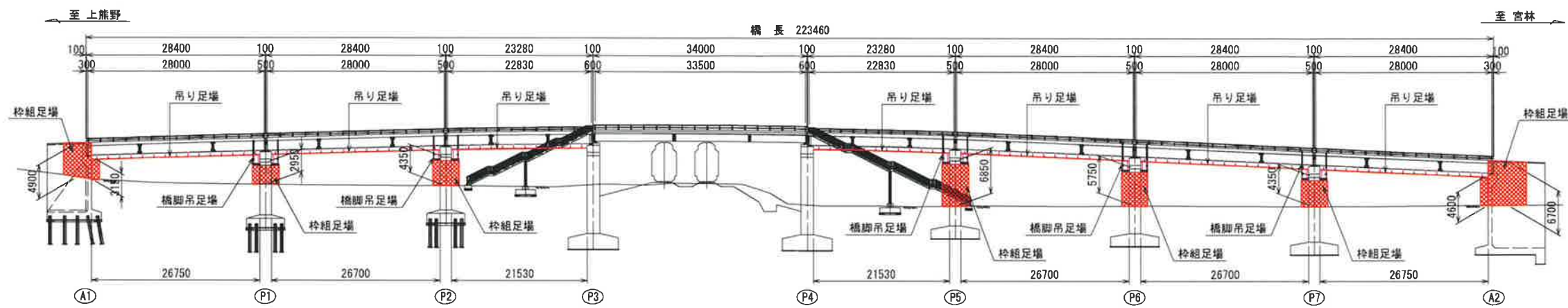
注記)

1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
2. 施工に際しては、必ず現地に補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

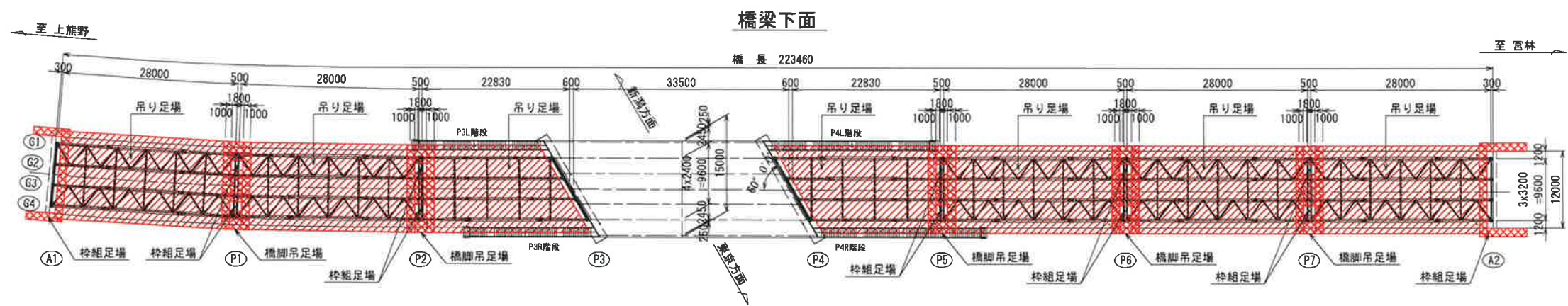
工事名	
図面名	城平跨線橋 下部工表面保護工・剥落防止工(その2)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 80 /
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

城平跨線橋 足場工参考図

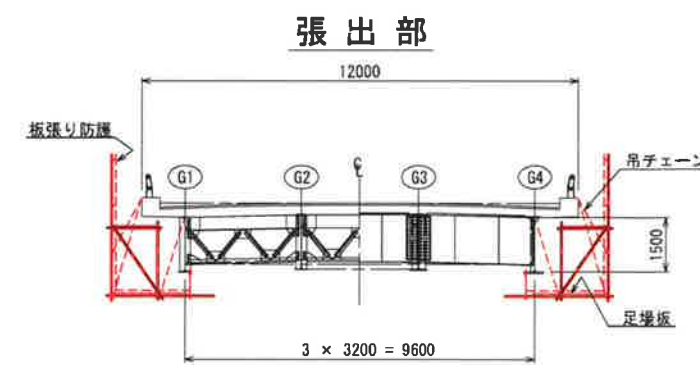
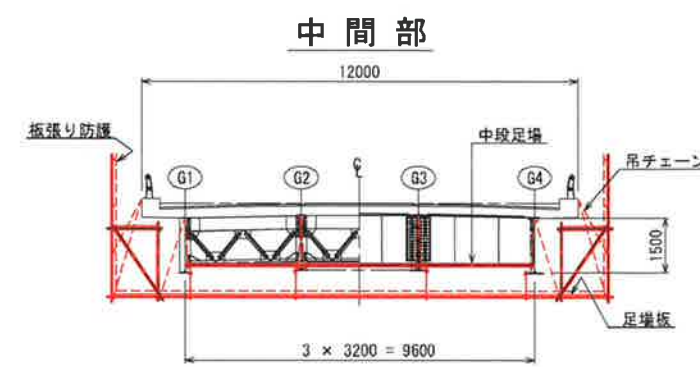
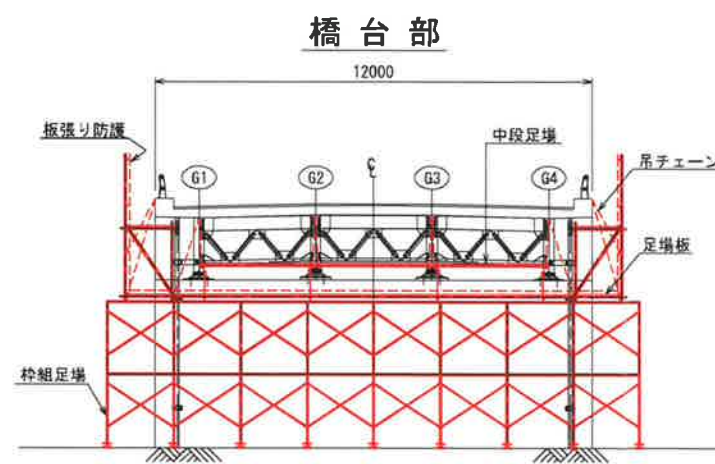
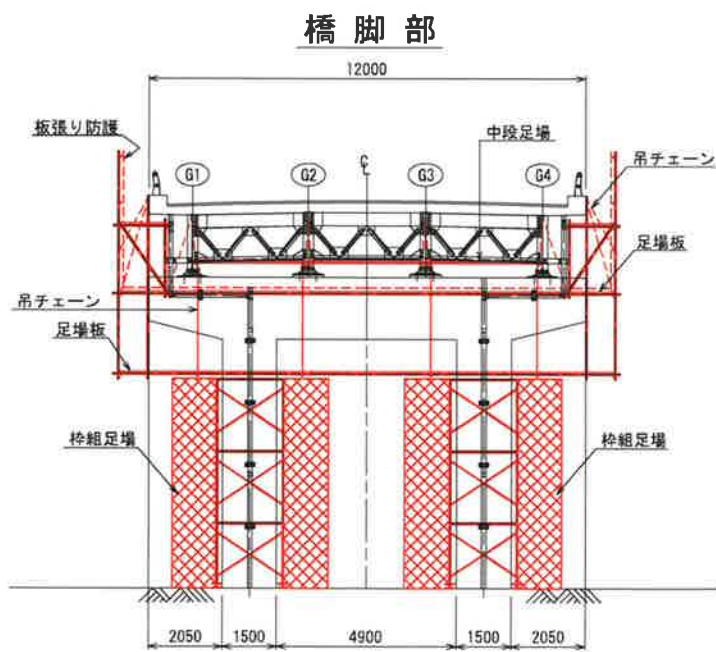
側面図 S=1/400



平面図 S=1/400



断面図 S=1/100



- 注記)
1. 足場架設の際は、必要に応じて積載荷重を検討し、安全であることを確認の上で施工にあたること。
 2. 足場架設の際は、現地状況及び寸法を確認の上行うこと。
 3. 足場には安全ネット及び養生シートなどの措置を行うこと。
 4. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名			
図面名	城平跨線橋 足場工参考図		
作成年月日	平成30年12月 日		
縮尺	図示	図面番号	86 /
会社名	株式会社 構造技研新潟		
事業者名	湯沢町地域整備部建設課		